

美麻地区の振興に関する住民意識調査 結果報告書

令和2年9月

目次

1. 実施状況	．．．．．	3ページ
回答者の状況	．．．．．	6ページ
2. 集落の現状と課題	．．．．．	8ページ
3. 事業評価の分析方法	．．．．．	21ページ
4. 主要事業の比較	．．．．．	22ページ
5. 主要事業の状況	．．．．．	28ページ
6. 事業評価	．．．．．	33ページ
7. 過疎対策事業の評価	．．．．．	39ページ
小中学生向けアンケートの結果	．．．．．	45ページ
参考資料	．．．．．	54ページ
美麻地区の人口推計	．．．．．	55ページ
美麻地区の人口動態	．．．．．	58ページ
自治会が選出を依頼される団体と役員数	．．．．．	61ページ

美麻地区の振興に関する住民意識調査

1. 実施状況

(1) 実施概要

本調査は「地域の現状と課題」及び「地域振興事業の評価とニーズ変化」を把握するため、平成22年度に実施した住民意識調査と同様の調査方法を用いて実施した。

- ・ 調査方法：記入式アンケート配布による調査
- ・ 実施期間：令和2年6月24日（水）から令和2年7月15日（水）
- ・ 対象者／配布数：
 - 調査① 16歳以上の住民 ・ 800部
 - 調査② 美麻小中学校（4～9年生の児童、生徒全員） ・ 71部

(2) 回収状況 ・配布数 800 部に対して回答は 348 部、回収率は 43.5 %であった。

(年代別)

- ・回収率が最も高かったのは 60 才代で 52.9 %、最低は 20 才代で 13.0 %であった。(図表 1 参照)
- ・前回調査と比較して、回収率が最も上昇したのは 30 才代 (23.7ポイント)、最も減少したのは 20 才代 (△6.4ポイント)であった。

・対象者数は 135 人減少しているが、
回答割合は 20 才代以外の全ての年代で
前回調査を上回り、全体では 43.5 %
と前回比 8.2 ポイント上昇している。
特に 10 才代、30 才代、60 才代の関
心の高さが伺える。

図表1-1 回収状況 (世代別)

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80～	不明
対象者数(人)	800	30	54	71	98	130	140	126	151	－
回答者数(人)	348	12	7	33	37	61	74	58	62	4
回答割合(%) A	43.5	40.0	13.0	46.5	37.8	46.9	52.9	46.0	41.1	－
前回の回答(%) B	35.3	25.5	19.4	22.8	33.1	37.4	37.5	40.5		
A-B	8.2	14.5	-6.4	23.7	4.7	9.5	15.4	3.1		

(自治会別)

- ・対象者が最も多いのは青具 (212人)、最も少なかったのは千見 (90人)であった。(図表 1 - 2 参照)
- ・回収率が最も高かったのは新行 (50.7%)、最低は千見 (33.3%) であった。(図表 1 - 2 参照)

図表1-2 回収状況 (自治会別)

	全体	大塩	二重	新行	青具	千見	不明
対象者数(人)	800	202	156	140	212	90	－
回答者数(人)	348	85	55	71	95	30	4
回答割合(%)	43.5	39.6	35.2	50.7	44.8	33.3	－

(2) 回収状況 (地区(自治会)／年代別)

図表1-3 回収状況 (地区別／世代別)

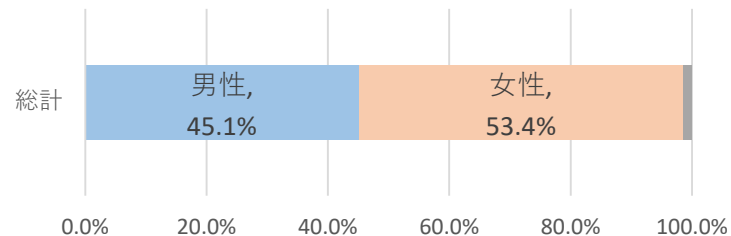
・年代別の回答割合の傾向は、自治会によって差が出ている。

	項目	10才代	20才代	30才代	40才代	50才代	60才代	70才代	80才以上	無回答	総計
01大塩	発送数	6	19	20	26	40	37	21	33	0	202
	回答数	1	2	10	9	22	17	13	11	0	85
	回答割合	16.7%	10.5%	50.0%	34.6%	55.0%	45.9%	61.9%	33.3%		42.1%
02二重	発送数	6	12	9	22	23	26	29	29	0	156
	回答数	4	0	3	5	7	12	12	12	0	55
	回答割合	66.7%	0.0%	33.3%	22.7%	30.4%	46.2%	41.4%	41.4%		35.3%
03新行	発送数	7	6	20	15	17	29	24	22	0	140
	回答数	3	1	10	7	9	13	14	14	0	71
	回答割合	42.9%	16.7%	50.0%	46.7%	52.9%	44.8%	58.3%	63.6%		50.7%
04青具	発送数	7	15	13	24	35	37	35	46	0	212
	回答数	3	4	6	9	18	25	14	16	0	95
	回答割合	42.9%	26.7%	46.2%	37.5%	51.4%	67.6%	40.0%	34.8%		44.8%
05千見	発送数	4	2	9	11	15	11	17	21	0	90
	回答数	1	0	4	7	3	4	4	7	0	30
	回答割合	25.0%	0.0%	44.4%	63.6%	20.0%	36.4%	23.5%	33.3%		33.3%
無回答	回答数					2	3	1	2	4	12
合計	発送数	30	54	71	98	130	140	126	151	0	800
	回答数	12	7	33	37	61	74	58	62	4	348
	回答割合	40.0%	13.0%	46.5%	37.8%	46.9%	52.9%	46.0%	41.1%		43.5%

回答者の性別、世代別構成比は次のとおりです。

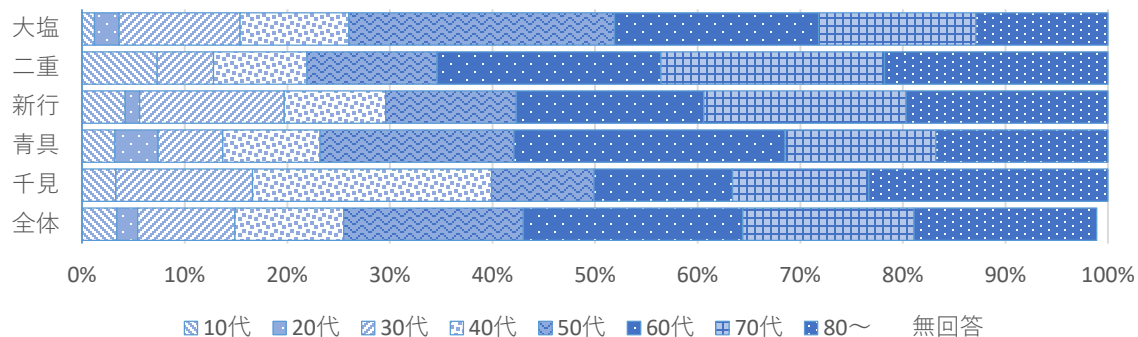
図表3 回答者の性別構成比／地区

	大 塩	二 重	新 行	青 具	千 見	無 回 答	総 計	(%)
男 性	36	28	29	46	15	3	157	45.1%
女 性	49	27	41	49	15	5	186	53.4%
無 回 答	0	0	1	0	0	4	5	1.5%
計	85	55	71	95	30	12	348	



図表4 回答者の年代構成比／地区

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80～
全体	3.4%	2.0%	9.5%	10.6%	17.5%	21.4%	16.7%	17.8%
大塩	1.2%	2.4%	11.8%	10.6%	25.9%	19.9%	15.3%	12.9%
二重	7.3%	0.0%	5.5%	9.1%	12.7%	21.8%	21.8%	21.8%
新行	4.2%	1.4%	14.1%	9.9%	12.7%	18.3%	19.7%	19.7%
青具	3.2%	4.2%	6.3%	9.5%	18.9%	26.4%	14.7%	16.8%
千見	3.3%	0.0%	13.3%	23.3%	10.0%	13.5%	13.3%	23.3%



年代別の回答割合は地区によって差があるが、全体では50才代以上の回答が多い。

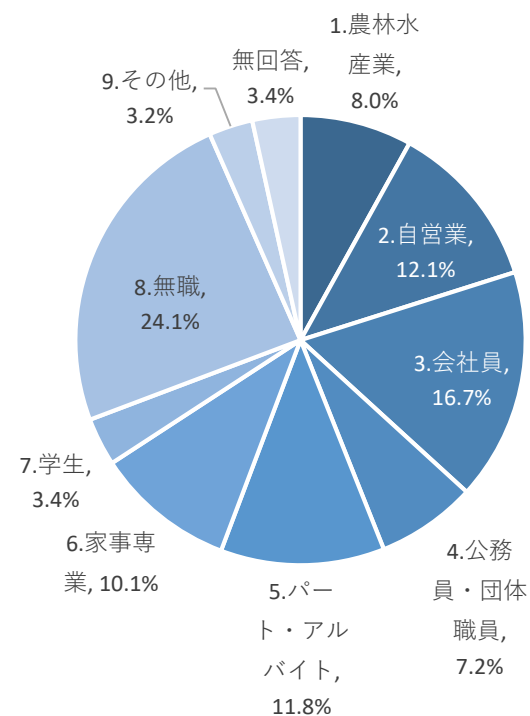
0-5あなたの職業についてお聞かせください。

高齢化の進展に伴い、最も多い職種は「8.無職（24.1%）」となっている。
以下「3.会社員（16.7%）」、「2.自営業（12.1%）」となっている。

図表5 回答者の職業構成比／年代

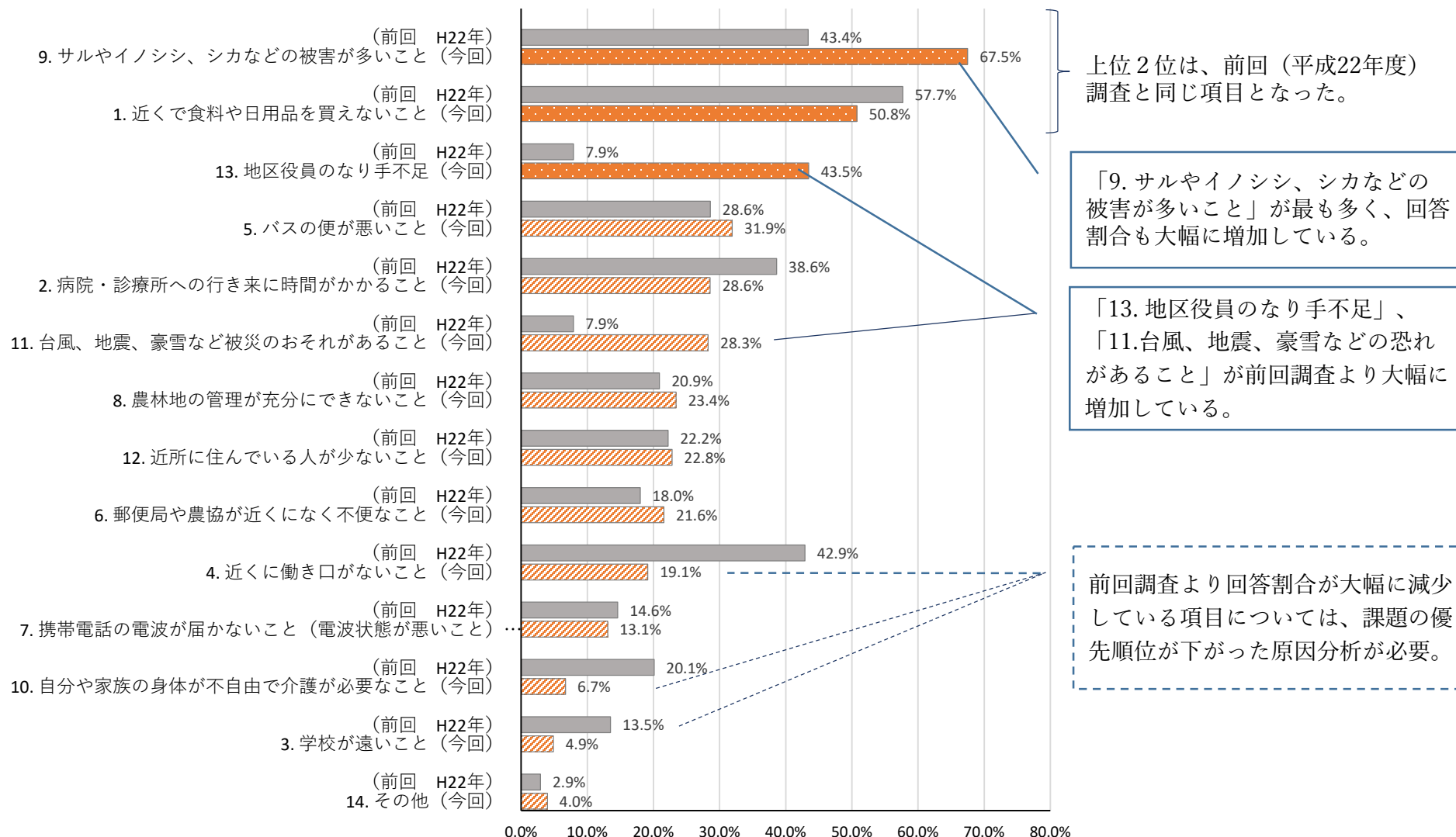
（単位：％）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80～	合計
1.農林水産業	0.0	0.0	3.6	7.1	7.1	28.6	35.7	17.9	8.0
2.自営業	0.0	2.4	23.8	11.9	26.2	26.2	4.8	4.8	12.1
3.会社員	0.0	5.2	20.7	17.2	34.5	17.2	3.4	0.0	16.7
4.公務員・団体職員	0.0	4.0	0.0	16.0	48.0	28.0	4.0	0.0	7.2
5.パート・アルバイト	0.0	2.4	9.8	34.1	19.5	24.4	9.8	0.0	11.8
6.家事専業	0.0	0.0	8.6	5.7	11.4	22.9	34.3	17.1	10.1
7.学生	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
8.無職	0.0	1.2	3.6	0.0	0.0	16.7	26.2	52.4	24.1
9.その他	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	27.3	27.3	18.2	3.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	25.0	16.7	25.0	3.4



2. 集落の現状と課題

質問1-① 現状の暮らしの中で、困っていることはどんなことですか。（前回調査との比較、回答の多い順）



2. 集落の現状と課題

質問1-① 現状の暮らしの中で、困っていることはどんなことですか。（地区別）

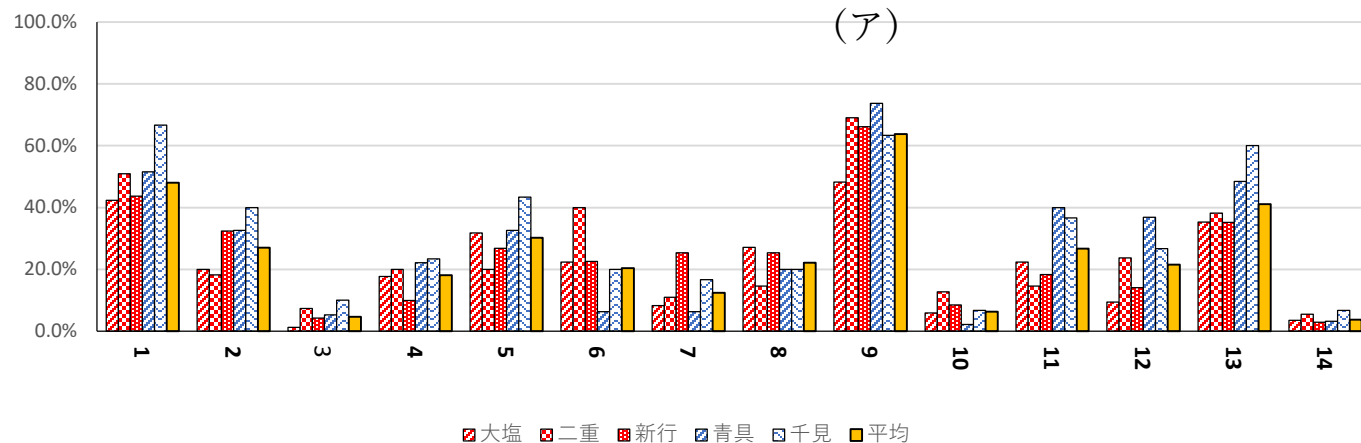
（ア）「9.サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと」は全地区で回答が最多となっている。

区分	回答者数	回答数	回答数／人	1 近くで食料や日用品 を買えないこと	2 と 病院・診療所への行 き来に時間がかかるこ と	3 学校が遠いこと	4 近く に働 き口が ないこ と	5 バス の便が 悪いこ と	6 郵便局や農協が近く になく不便なこと	7 携帯電話の電波が届 かないこと（電波状態 が悪いこと）	8 農林地の管理が充分 にできないこと	9 と サルやイノシシ、シ カなどの被害が多いこ と	10 自分や家族の身体が 不自由で介護が必要な こと	11 台風、地震、豪雪な ど被災のおそれがある こと	12 近所に住んでいる人 が少ないこと	13 足 地区役員のなり手不 足	14 その他
大塩	85	251	3.0	36	17	1	15	27	19	7	23	41	5	19	8	30	3
二重	55	190	3.5	28	10	4	11	11	22	6	8	38	7	8	13	21	3
新行	71	238	3.4	31	23	3	7	19	16	18	18	47	6	13	10	25	2
青具	95	362	3.8	49	31	5	21	31	6	6	19	70	2	38	35	46	3
千見	30	132	4.4	20	12	3	7	13	6	5	6	19	2	11	8	18	2
無回答	12	31	2.6	3	1	0	2	4	2	1	3	7	0	4	1	3	
総計	348	1204	3.5	167	94	16	63	105	71	43	77	222	22	93	75	143	13
		3.46		48.0%	27.0%	4.6%	18.1%	30.2%	20.4%	12.4%	22.1%	63.8%	6.3%	26.7%	21.6%	41.1%	3.7%

回答数 × 50%以上

回答数 × 40%以上50%未満

回答数 × 30%以上40%未満



2. 集落の現状と課題

質問1-① 現状の暮らしの中で、困っていることはどんなことですか。（年代別）

- ・(ア)「1.近くで食料や日用品を買えないこと」の回答割合は30歳代以下と80歳以上で高くなっている。
- ・(イ)「5.バスの便が悪いこと」の回答割合は10歳代が最も多くなっている。
- ・(ウ)「9.サルやイノシシ、シカなどの被害が多いこと」の回答割合は50歳以上の年代最も多くなっている。
- ・(エ)「地区役員のなり手不足」は50～60歳代を中心に回答割合が高くなっている。（P61 資料参照）

区分	回答者数	回答数	回答数／人	1 近くで食料や日用品 を買えないこと	2 病院・診療所への行 き来に時間がかかる こと	3 学校が遠いこと	4 近くに働き口がない こと	5 バスの便が悪いこと	6 郵便局や農協が近く になく不便なこと	7 携帯電話の電波が届 かないこと（電波状 態が悪いこと）	8 農林地の管理が充分 にできないこと	9 サルやイノシシ、シ カなどの被害が多い こと	10 自分や家族の身体が 不自由で介護が必要 なこと	11 台風、地震、豪雪な ど被災のおそれがあ ること	12 近所に住んでいる人 が少ないこと	13 地区役員のなり手不 足	14 その他
10歳代	12	38	3.2	6	3	3	5	9	1	5	0	2	0	2	2	0	0
20歳代	7	20	2.9	5	3	0	3	1	0	1	0	3	0	3	0	1	0
30歳代	33	103	3.1	17	9	3	6	10	4	6	4	14	3	10	4	11	2
40歳代	37	120	3.2	18	9	4	8	17	3	8	7	16	0	8	5	14	3
50歳代	61	201	3.3	28	16	4	13	17	7	8	8	32	2	18	9	36	3
60歳代	74	245	3.3	28	12	0	15	16	12	4	22	56	4	17	16	39	4
70歳代	58	232	4.0	27	16	1	8	15	22	6	22	50	5	15	17	28	0
80歳以上	62	239	3.9	37	26	1	5	19	22	4	13	47	10	19	21	14	1
無回答	4	8	2.0	1	0	0	0	1	0	1	1	2	0	1	1	0	0
総計	348	1206	3.5	167	94	16	63	105	71	43	77	222	24	93	75	143	13
				48.0%	27.0%	4.6%	18.1%	30.2%	20.4%	12.4%	22.1%	63.8%	6.9%	26.7%	21.6%	41.1%	3.7%

 回答数×50%以上
 回答数×40%以上50%未満
 回答数×30%以上40%未満

(ア)

(イ)

(ウ)

(エ)

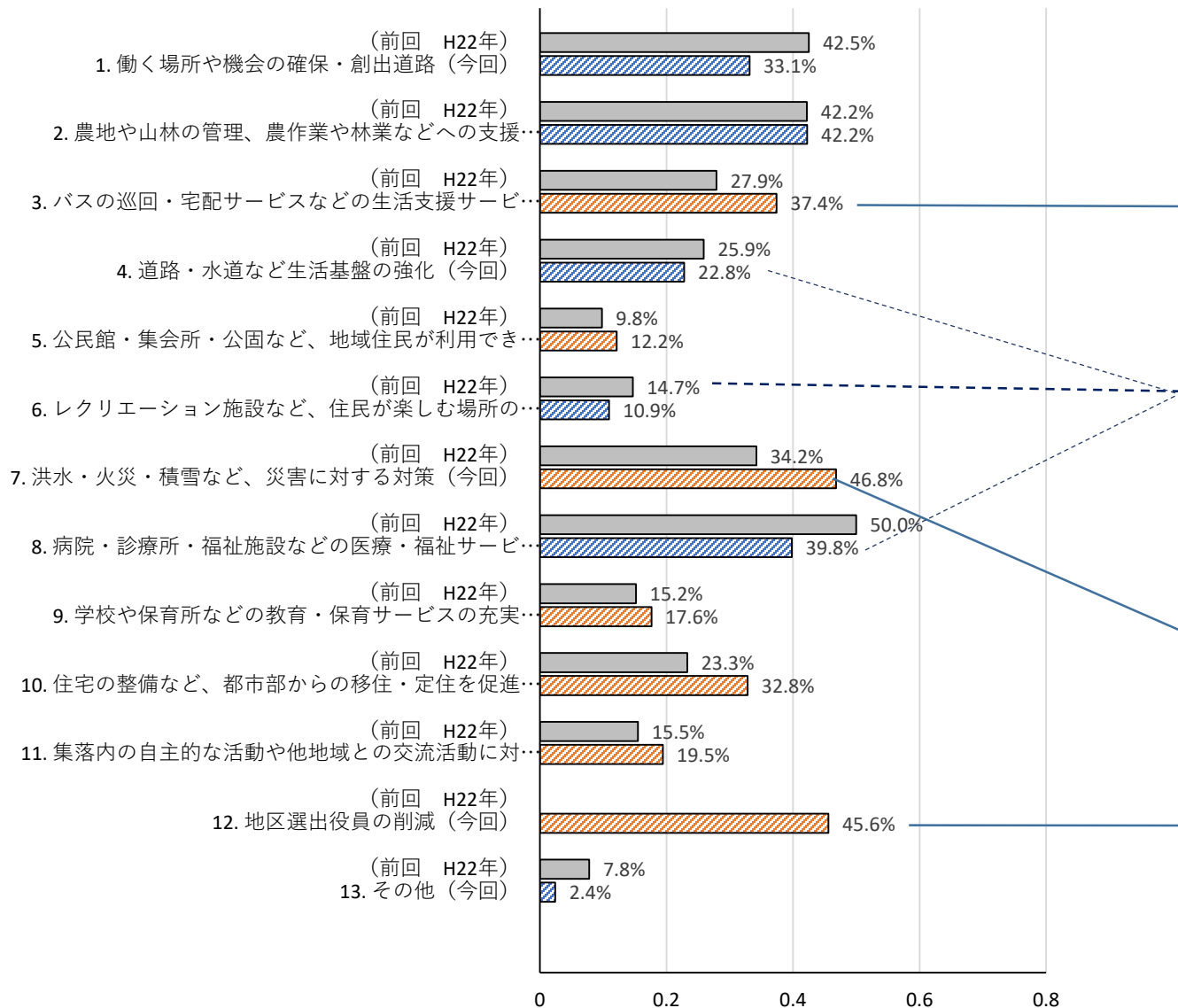
2. 集落の現状と課題

質問1－① 14その他の意見

- ・ 同世代の知り合いが少ない（20代）
- ・ 現状では、今のところ問題はありません。（20代）
- ・ 子どもがいない（60代）
- ・ 地区の行事、役などが大変、人が少ないので（60代）
- ・ 畑の近くで近所の人ゴミや洋服等を燃やしていて迷惑です（40代）
- ・ 家が売れるか？（60代）
- ・ 安協やもろもろ時代にあわせた人員配置や工夫が必要。高齢者、それを支える世帯の負担が大きく維持が難しいです。
- ・ 高齢者の運転免許証の返納等による、足の確保等（70代）
- ・ 地域の行事と宗教が分離していない事。引っ越してきたとき氏子になるべきだと言われた、宗教の自由が認められない土地なのかと不安になった。神社の祭りに協力金など強制的に感じる（60代）
- ・ 現在、車の運転ができ健康に恵まれておりまして何もこまっておりますが、運転ができなくなりましたら状況は変わります。（80代）

2. 集落の現状と課題

質問1 - ② 今後、行政に特に力を入れて欲しい施策は何ですか。（前回調査との比較）



・「3. バスの巡回・宅配サービスなどの生活支援サービス」も9.5%増加している。

・「8. 病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実」や「6. レクリエーション施設など、住民が楽しむ場所の整備」、「4. 水道など生活基盤の強化」など社会基盤の整備に関する項目はいずれも減少している

・「7. 洪水・火災・積雪など、災害に対する対策」が最も多くなっている。

・前回調査にはなかった項目だが、「12. 地区選出役員の削減」が2番目に多い。

2. 集落の現状と課題

質問1-② 今後、行政に特に力を入れて欲しい施策は何ですか。（地区別）

・（ア）「7. 洪水・火災・積雪など、災害に対する対策」、「12. 地区選出役員の削減」については、青具地区、千見地区の回答割合が50%を超えて高くなっている。

・（イ）「8. 病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実」は千見地区の回答割合が50%を超えて高くなっている。

区分	回答者数	回答数	回答数／人	1 創出	2 働く場所や機会の確保・ 業や林業などへの支援	3 農地や山林の管理、農作 業や林業などへの支援	4 バスなどの生活支援サービ ス	5 道路、水道など生活基盤 の強化	6 公民館・集会所・公園な ど、地域住民が利用でき る施設の整備	7 洪水・火災・積雪など、 災害に対する対策	8 病院・診療所・福祉施設 などの医療・福祉サービ スの充実	9 学校や保育所などの教 育・保育サービスの充実	10 住宅の整備など、都市部 からの移住・定住を促進 する事業	11 集落内の自主的な活動や 他地域との交流活動に対 する支援	12 地区選出役員の削減	13 その他
大塩	85	273	3.2	28	33	32	15	10	4	35	26	14	26	13	35	2
二重	55	179	3.3	20	25	22	11	6	2	15	19	7	25	8	18	1
新行	71	239	3.4	22	29	20	14	9	10	33	33	14	13	14	27	1
青具	95	341	3.6	26	37	32	25	10	10	51	33	14	31	22	48	2
千見	30	127	4.2	12	11	12	8	4	6	15	18	9	11	5	15	1
無回答	12	35	2.9	1	4	5	2	1	4	5	2	0	1	2	7	1
総計	348	1194	3.4	109	139	123	75	40	36	154	131	58	107	64	150	8
				31.3%	39.9%	35.3%	21.6%	11.5%	10.3%	44.3%	37.6%	16.7%	30.7%	18.4%	43.1%	2.3%



回答数×50%以上



回答数×40%以上50%未満



回答数×30%以上40%未満

（イ）

（ア）

2. 集落の現状と課題

質問1-② 今後、行政に特に力を入れて欲しい施策は何ですか。（年代別）

- ・「働く場所や機械の確保・創出」は、10歳代、20歳代の回答割合が高くなっている。
- ・「7. 洪水・火災・積雪など、災害に対する対策」は20歳代以上で回答割合が高くなっている。
- ・「8. 病院・診療所・福祉施設などの医療・福祉サービスの充実」は、50歳代以上で回答割合が高く、70歳代以上の回答割合は50%を超えている。
- ・「12. 地区選出役員の削減」は、50歳代から80歳以上で50%を超える回答割合となっている。

				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
区分	回答者数	回答数	回答数／人	保働・く創場出所や機会の確	の農農支作地援業や山林業のな管へ	支サバ援サービスの巡回・宅配	基道盤路、の水道強化	備利園公的な民でど館、き地集会所の整	む設レ場なク所ど、の住整備がヨ楽ンし施	策ど洪、水災・害に災対する積雪な	社施病サ設院一な・ビど診スの療の医所充療・福祉	の教学充育校実・や保保育育サ所一なビスの	住市住を部宅促かの進ら整する移な事住ど、業・都定	活動集動や落他に内対地のす域自ると主支的援交な流活	地区選出役員の削減	その他
10歳代	12	35	2.9	7	1	7	0	2	2	3	2	5	2	4	0	0
20歳代	7	18	2.6	4	3	2	0	0	1	4	2	0	2	0	0	0
30歳代	33	114	3.5	9	9	10	3	8	4	13	6	14	15	9	12	2
40歳代	37	128	3.5	14	15	17	8	7	4	12	9	13	10	7	11	1
50歳代	61	197	3.2	16	22	21	17	4	2	31	24	7	12	5	35	1
60歳代	74	267	3.6	29	34	19	15	6	4	33	24	10	29	16	45	3
70歳代	58	225	3.9	22	28	16	16	6	8	30	31	6	19	13	29	1
80歳以上	62	199	3.2	8	25	29	16	7	10	26	33	3	17	9	16	0
無回答	4	11	2.8	0	2	2	0	0	1	2	0	0	1	1	2	0
総計	348	1194	3.4	109	139	123	75	40	36	154	131	58	107	64	150	8
				31.3%	39.9%	35.3%	21.6%	11.5%	10.3%	44.3%	37.6%	16.7%	30.7%	18.4%	43.1%	2.3%

2. 集落の現状と課題

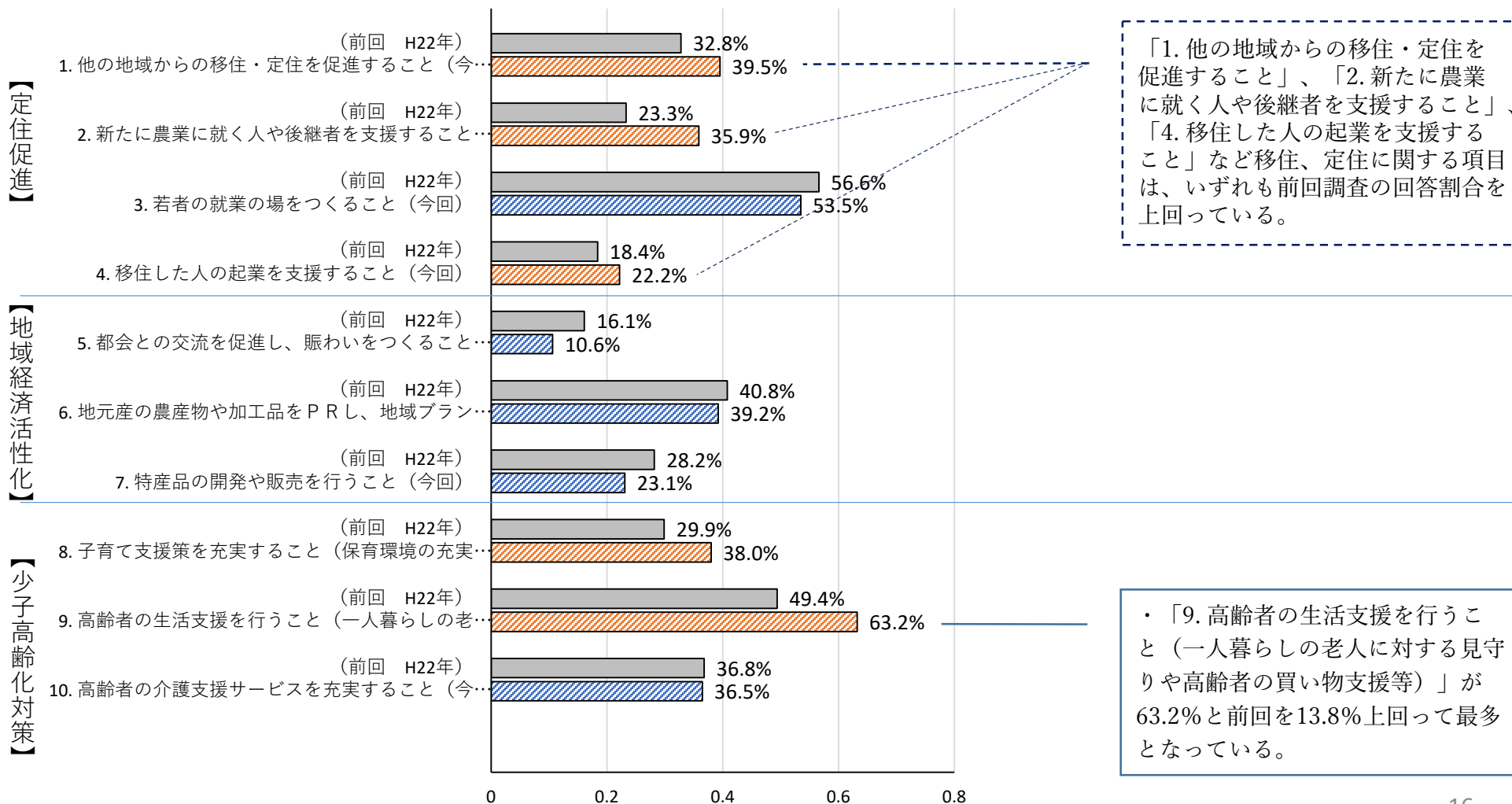
質問1 - ② その他の意見

- ・ 自然を美しく、手を入れつつ元に戻す（40代）
- ・ サルが怖いから、サル対策（10代）
- ・ サル対策（30代）
- ・ 私有地に隣接する市県有地の草刈をして欲しい。現在は私がしている。（60代）
- ・ 宅地造成し家を建てる所を造る。（70代）

2. 集落の現状と課題

質問1 - ③ これからの美麻地区の地域づくりを考える時、特に重要と思われる施策はなんですか。（前回調査との比較）

- ・【定住促進】、【少子高齢化対策】では前回調査よりほとんどの項目で回答割合が高くなっているが、【地域活性化】施策はいずれも前回調査の結果を下回る結果となった。



2. 集落の現状と課題

質問1-③ これからの美麻地区の地域づくりを考える時、特に重要と思われる施策はなんですか。（地区別）

- ・「9.高齢者の生活支援を行うこと（一人暮らしの老人に対する見守りや高齢者の買い物支援等）」は全地区で50%を超える回答割合となっている。

				定住促進				地域経済活性化			少子高齢化対策		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
区分	回答者数	回答数	回答数／人	る住他 こ・の と定地 住域 をか 促ら 進の す移	す人新 るやた こ後に と継農 者業 をに 支就 援く	つ若 く者 のの こ就 と業 の場 を	を移 支住 援し すた る人 この と起 業	る進都 こし、会 と賑の交 わい流を をつ促	る域加地 こブ工元 とラ品産 ンをの ドP農 をR産 つし物、 くや地	売特 を産 行品の うの開 こ発 とや 販	境実子 のす育 充るて 実こ支 等）援 （策を 保充 育環	のるら 買見し い守の 物り老 支や人 援高に 等）齢対 者者す	こと高 とサー サービス をの介 充護 実支 する援
大塩	85	271	3.2	24	24	46	20	8	26	12	26	51	34
二重	55	181	3.3	24	15	25	14	8	24	12	16	29	14
新行	71	242	3.4	22	28	30	8	5	28	16	28	45	32
青具	95	345	3.6	42	36	51	28	11	32	18	38	59	30
千見	30	125	4.2	17	10	21	1	2	17	15	16	18	8
無回答	12	26	2.2	1	5	3	2	1	2	3	1	6	2
総計	348	1190	3.4	130	118	176	73	35	129	76	125	208	120
				37.4%	33.9%	50.6%	21.0%	10.1%	37.1%	21.8%	35.9%	59.8%	34.5%



回答数×50%以上



回答数×40%以上50%未満



回答数×30%以上40%未満

2. 集落の現状と課題

質問1-③ これからの美麻地区の地域づくりを考える時、特に重要と思われる施策はなんですか。（年代別）

- ・「3.若者の就業の場をつくること」、「9.高齢者の生活支援を行うこと（一人暮らしの老人に対する見守りや高齢者の買い物支援等）」の回答割合が全ての年代で高くなっている。
- ・「8.子育て支援策を充実すること（保育環境の充実等）」や「10.高齢者の介護支援サービスを充実すること」は回答割合の高い年代が偏っている。

区分	回答者数	回答数	回答数／人	定住促進				地域経済活性化			少子高齢化対策		
				1 他の地域からの移住・定住を促進すること	2 新たに農業に就く人や後継者を支援すること	3 若者の就業の場をつくること	4 移住した人の起業を支援すること	5 都会との交流を促進し、賑わいをつくること	6 地元産の農産物や加工品をPRし、地域ブランドをつくること	7 特産品の開発や販売を行うこと	8 子育て支援策を充実すること（保育環境の充実等）	9 高齢者の生活支援を行うこと（一人暮らしの老人に対する見守りや高齢者の買い物支援等）	10 高齢者の介護支援サービスを充実すること
10歳代	12	38	3.2	3	4	7	3	2	3	1	6	6	3
20歳代	7	19	2.7	1	3	4	2	2	1	0	2	3	1
30歳代	33	129	3.9	18	11	16	11	7	11	7	25	14	9
40歳代	37	132	3.6	13	12	19	9	4	18	9	21	23	4
50歳代	61	186	3.0	18	15	31	8	4	20	7	21	37	25
60歳代	74	253	3.4	31	27	32	17	9	33	24	20	41	19
70歳代	58	221	3.8	20	23	36	11	4	23	17	14	42	31
80歳以上	62	206	3.3	26	22	30	12	2	20	11	15	41	27
無回答	4	6	1.5	0	1	1	0	1	0	0	1	1	1
総計	348	1190	3.4	130	118	176	73	35	129	76	125	208	120
				10.9%	9.9%	14.8%	6.1%	2.9%	10.8%	6.4%	10.5%	17.6%	10.1%

回答数×50%以上

回答数×40%以上50%未満

回答数×30%以上40%未満

2. 集落の現状と課題

質問1 - ③ その他の意見

【定住促進についての意見】

- ▶ 働く場所について、美麻では農林業、建設業などの仕事がある、移住した人は色々な仕事で生計を立てている仕事は沢山あると思う。（60代）
- ▶ 移住者の多くは働く場所が少なく、生活費に苦しんでいる現状、受け入れる側として住宅と共に働ける場をもう少し作って欲しいと願います。（70代）
- ▶ 高学歴により、高収入、安定的な職場がなくIT産業等の誘致をすること。（70代）
- ▶ 千見の人口減少が深刻なので何とかしてほしい。住むにも家を建てる場所もない。山を一つ切り開くなどして土地を確保してほしい。（30代）

【地域活性化についての意見】

- ▶ 不必要なイベントや会議などの廃止。（20代）
- ▶ 空いた田畑で作れる、管理が簡単で高収入の野菜をJAと協議し、美麻に広げる、（60代）
- ▶ 自然の美しさを損なわない環境保全（40代）
- ▶ 人を集めることが重要だと思いますし、基本だと考えます。カレーにしても特産品にしても価格が高すぎる、都会と変わらないのでは？地の人でも食べないし買わない（60代）
- ▶ 直には聞けないけれど「麻の館」のおやきがとても評判が前からあります。継続してやってもらえるように働きかけてほしい（70代）
- ▶ 新行の河の整備。河に降りて水遊びを孫にさせたい。河の散歩道を作って、散歩の楽しい村をお願いします。所々にベンチなどを置いて、ホテルも増やしたい。協力したいです。（60代）
- ▶ レクリエーション施設の整備（親水公園、花壇など散歩できる所）定住促進、子ども、高齢者の遊び場確保のつながる。整備することの仕事が生まれるのでは（30代）
- ▶ おやきはたえですが：地元の人にとって当たり前のおやきも他県から来た人にとってはとても魅力を感じます。ただ、その地元のお母さんがつくった手作りのものでさえ裏を見ると、アミノ酸等など体に良くないものが入っていることが多くあります。今都会や私の友達に食に気を付けている人が多くいて、スーパーやどこかへ出かけた時なども裏を見てチェックしてあまり添加物が入っていないものを選ぶ人が確実に増えています。調味料、材料にこだわり、なおかつおしゃれなパッケージだとお土産として買ってもらえていいのではないのでしょうか？もちろん美味しさも大事ですが。（40代）
- ▶ 美麻地区の問題と併用して、大町市としての美麻地区の利点、または長所をアピールして大町市に無くてはならないもの、また将来的に、日本の大切なものになるといい。（歴史的or人がいいなど）（50代）

2. 集落の現状と課題

質問1 - ③ その他の意見

【少子高齢化対策についての意見】

- ▶ (多すぎる) 役員数の削減。若者中心の自治への移行。(20代)
- ▶ ①5に準ずるが交流から支援への流れを作る事。雪かき隊、草刈り隊、などの創生＝遊びながら年に数回のようなことできないでしょうか？(60代)
- ▶ ②子育て、高齢者支援を並列した事業化、定住、活性化、少子高齢化を縦割りで考えないで。(60代)
- ▶ 美麻・・・若者がではなく、高齢者を大切にすることで、いずれ若者が来ると思う。大町市に合併したのだから、大町市を強調した方が良い。(50代)
- ▶ 現状に合わせた事業をし、役員を減らすこと。組織団体等を作れば当然役員が必要になり、ますます役員のなり手がなくなるので、市が何を言おうと美麻にあった体制作りの議論をしてください。(10代)
- ▶ 住みよい地域づくり、田舎で年寄りが多いので若者と年齢差が大きいので年寄りが結構強く若者が引いていないとうまくいかない(60代)
- ▶ 今いる人が住みたいまちづくりが大切と思います。そうすれば自然と人は集まってくださると思う。子ども、おじいちゃん、おばあちゃん、を大切にすると住まいを応援する(30代)
- ▶ 少子高齢化が国として進んでいる中で美麻地区が定住や後継者問題を解決できるとは思えない。頑張って残っている高齢者の対応をしっかりとしてください。自分たちの足元を見て無駄なことに踊らずに。(60代)
- ▶ 運転(マイカー)ができなくなった人は、買物、医者、郵便局、農協、銀行等すぐに困ることがいっぱいです！どのように支援していけば良いのか早急に考え行動に移していただきたい。(60代)
- ▶ 現在は車の運転ができて不便を感じませんが、10年後以降、免許返納したらどこへも行かなくて引きこもりそうです。Iターンで同世代の友人もいるのでここで老後は過ごせないと不安です。(60代)
- ▶ 土曜日のバスが無くなったことが不便。自分の土地、山の様子を私の周囲の方は一度も訪れたことがない、お金にならないと言ってももう少し大切に思ったらどうか？住んでいるものが一番不便している。(80代)
- ▶ 休日のバス運行は子供と子育て世帯にとって重要です。是非、再開をお願いします。(50代)
- ▶ 移住も歓迎しますが、美麻で育った若者が帰ってきて、美麻を居住地として選んで住んでくれるのが何より一番うれしいことです。たとえ美麻内に直接就労しなくても、近隣の他市町村に通勤できて、子育ては美麻でしたいという環境は大事だと思います。老親への福祉サービスも充実していれば、なお安心して住めます。正直現時点(自分で車の運転ができる今)において、困ることはあまり思い浮かばないのですが、将来的に同居の家族がなくて、高齢になってしまった時は、きっとこのままでは困るだろうなあと、漠然と思います。(50代)
- ▶ 少子高齢化に伴う限界集落の問題点を取り上げ役職・事業を減らす事など検討して欲しい。(70代)

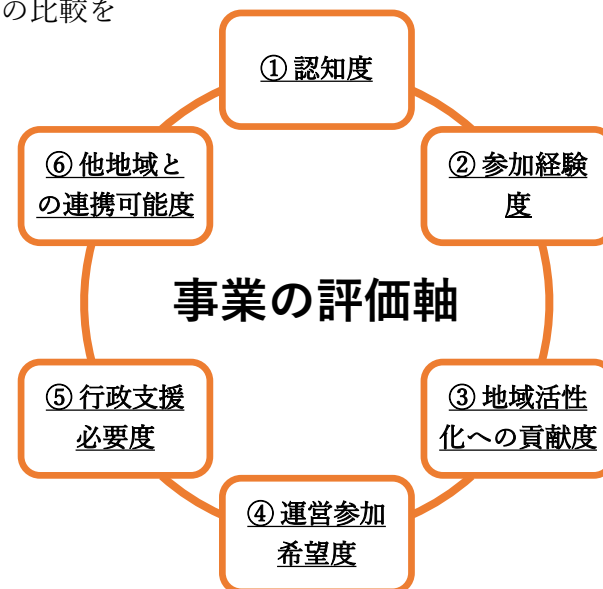
3. 事業評価の分析方法

(1) 事業評価軸の設定

主なソフト事業について、次の6項目の評価を得た。各事業について前回調査との比較を含めて評価を行う。

(カッコ内は調査票に記載した設問文)

- ① 認知度 (この事業を知っていますか)
- ② 参加経験度 (この事業に参加したり関わったりしたことがありますか)
- ③ 地域活性化への貢献度 (この事業で明るくなったり元気になったと思いますか)
- ④ 運営参加希望度 (この事業の運営に参加応援したいと思いますか)
- ⑤ 行政支援必要度 (この事業に行政は支援すべきだと思いますか)
- ⑥ 他地域との連携可能性 (地区外とも連携して行うべきだと思いますか)



(2) 評価事業の追加

前回（平成22年度）調査で選定した8事業に以下の5事業を加えて評価を実施した。

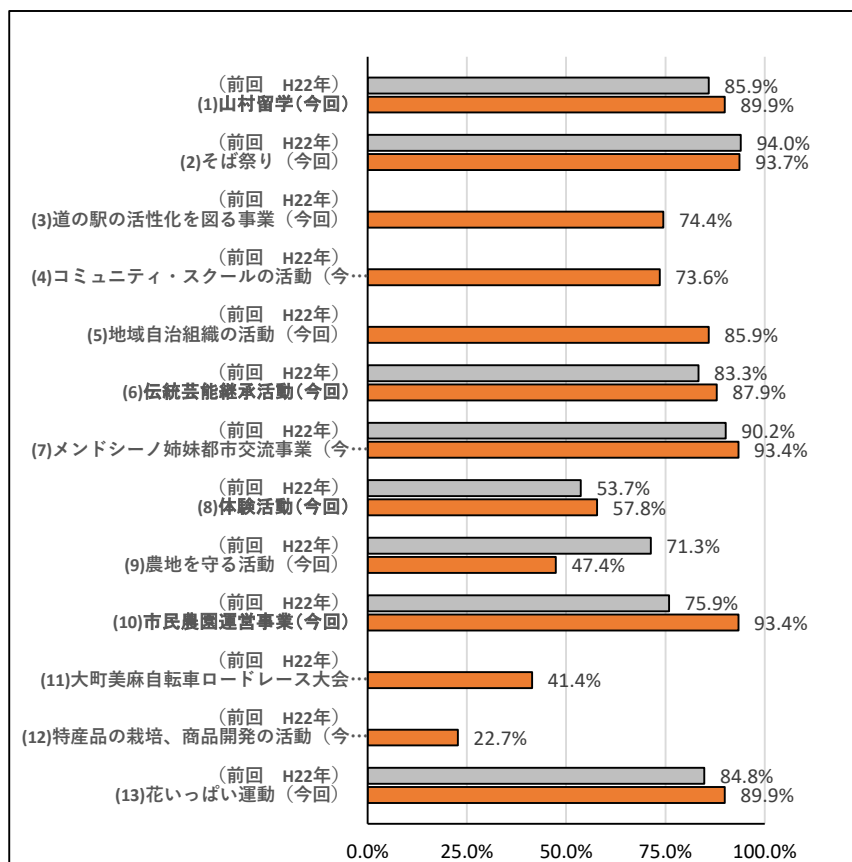
- ・道の駅の活性化を図る活動
- ・コミュニティ・スクールの活動
- ・地域自治組織の活動
- ・大町美麻自転車ロードレース大会
- ・特産品の栽培・商品開発等の活動

質問2 美麻地区で行われている様々な活動に対する、あなたの考えをおたずねします。

4. 主要事業の比較

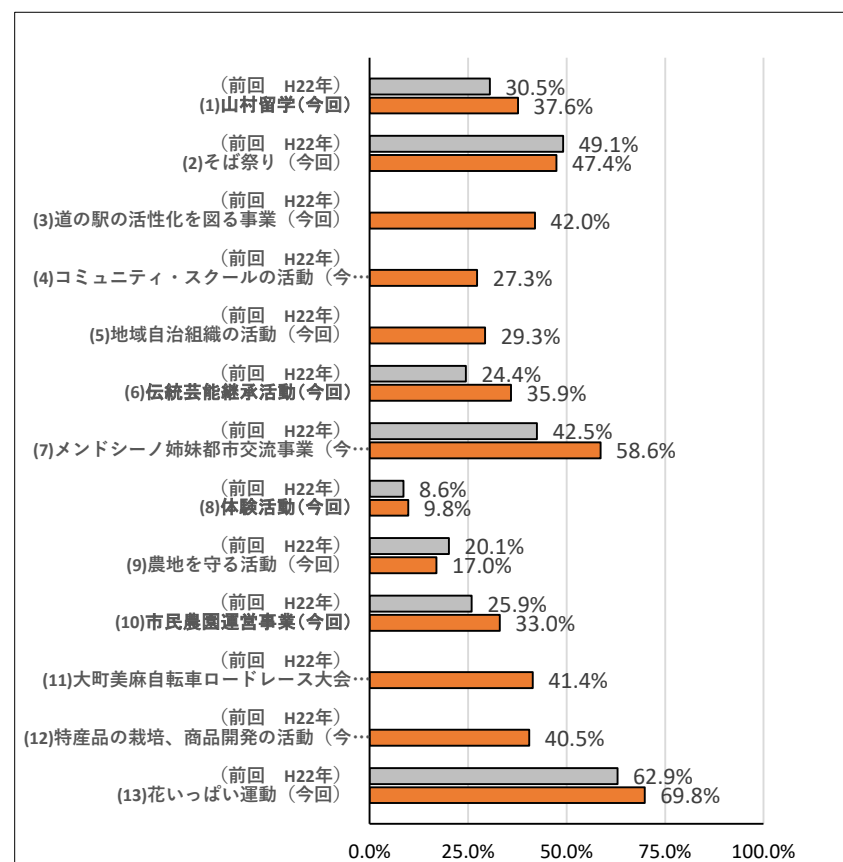
(1) 質問2-1 主要事業の「認知度」

前回調査との比較では、ほとんどの事業で前回調査の割合を上回っているが、(9)農地を守る活動については認知度が低下している。認知度の平均は73.9%であり、高い水準にある。



(2) 質問2-2 主要事業の「参加経験度」

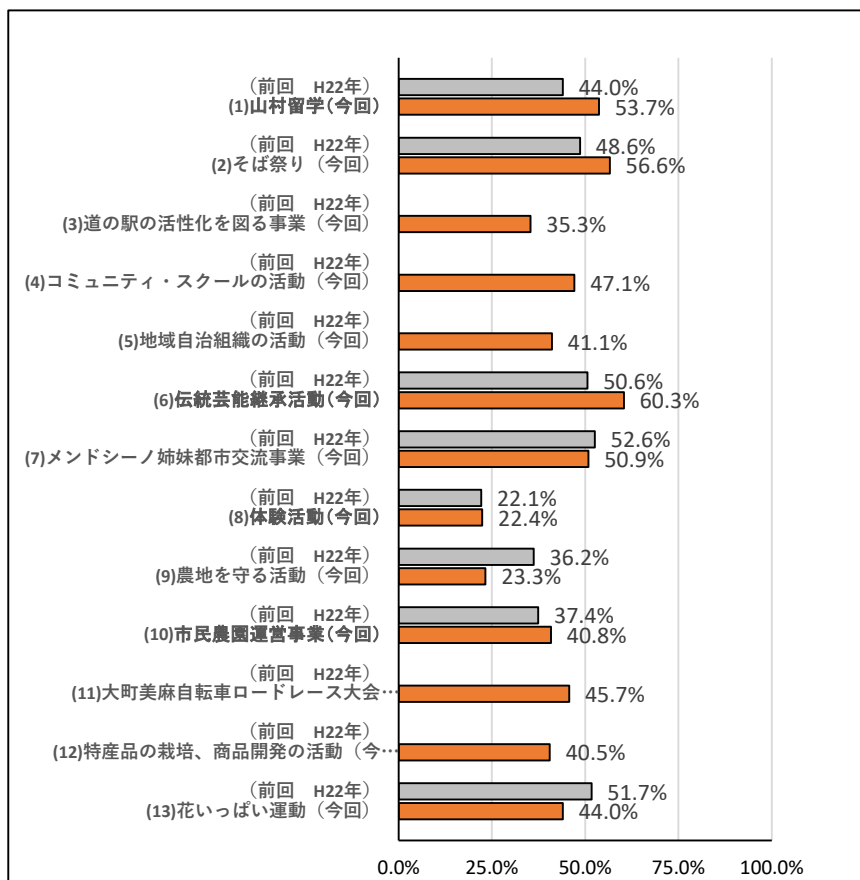
参加経験度は、高い順に(13)花いっぱい運動(69.8%)、次いで(7)メンドシーノ姉妹都市交流事業(58.6%)となっている、全事業の平均は37.7%であり、前回調査時と比較すると全体的に事業への参加経験度が上昇しているといえる。



4. 主要事業の比較

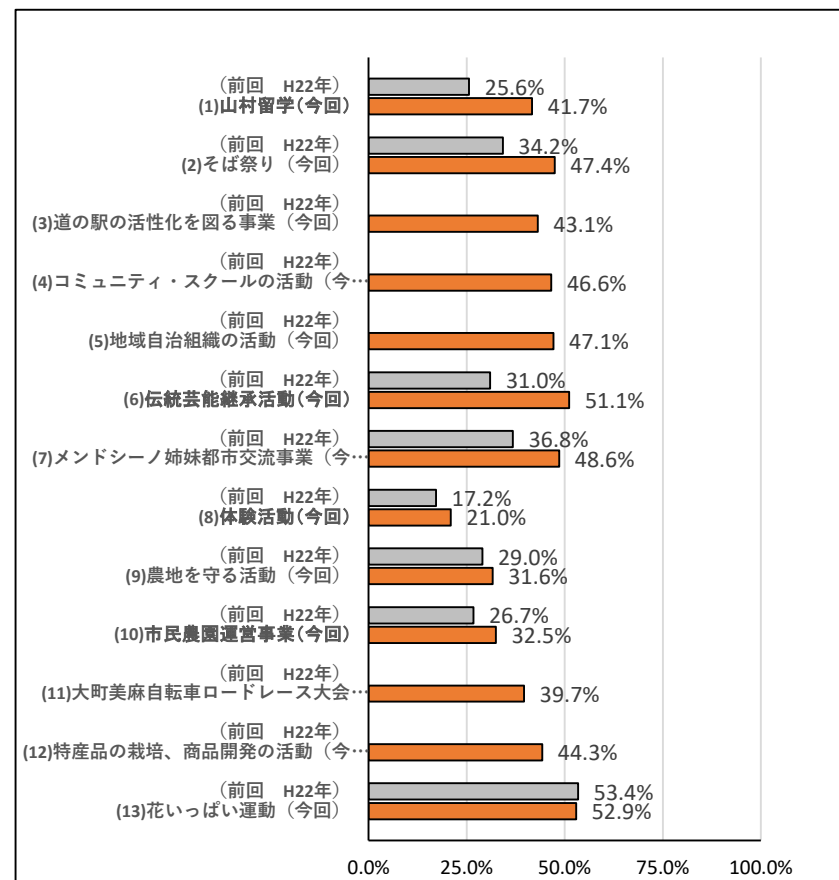
(3) 質問2-3 主要事業の「地域活性化度」

地域活性化度が最も高いのは、(6)伝統文化継承活動（60.3%）となっている。全事業の平均は43.2%と前回調査時の平均（42.9%）とほぼ同じ割合となっている。



(4) 質問2-4 主要事業の「運営参加希望度」

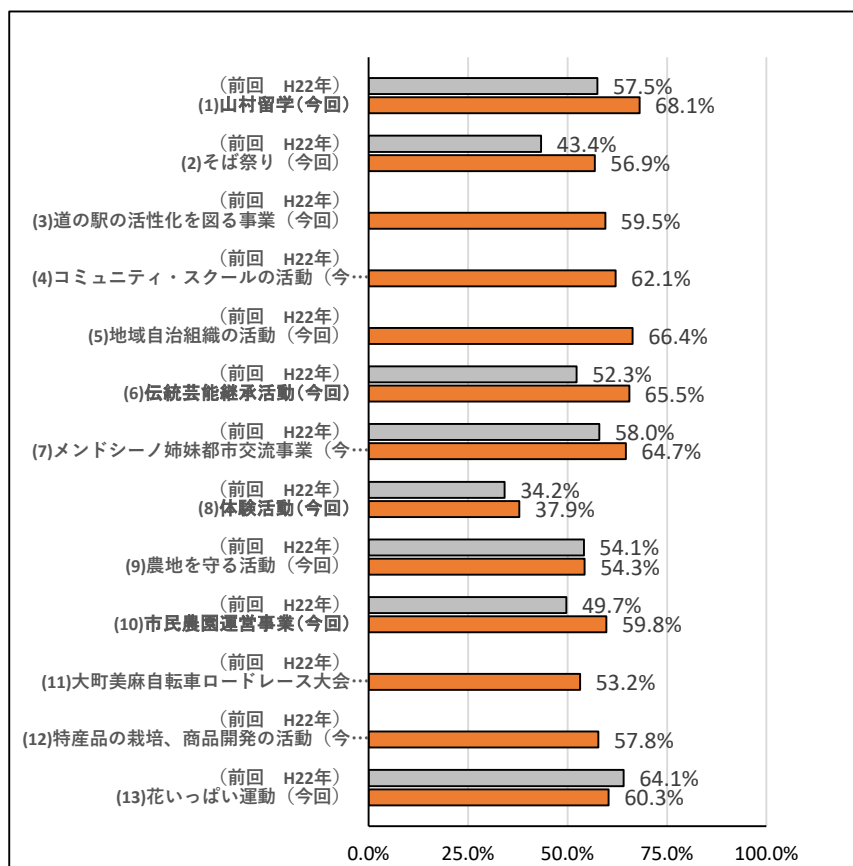
運営に参加したり応援したいと考えている人の割合は平均で42.1%と前回調査（31.8%）を10ポイント上回る結果となり、事業への参加意欲が高まっていることが伺える。中でも、(6)伝統芸能継承活動、(1)山村留学の増加割合が高くなっている。



4. 主要事業の比較

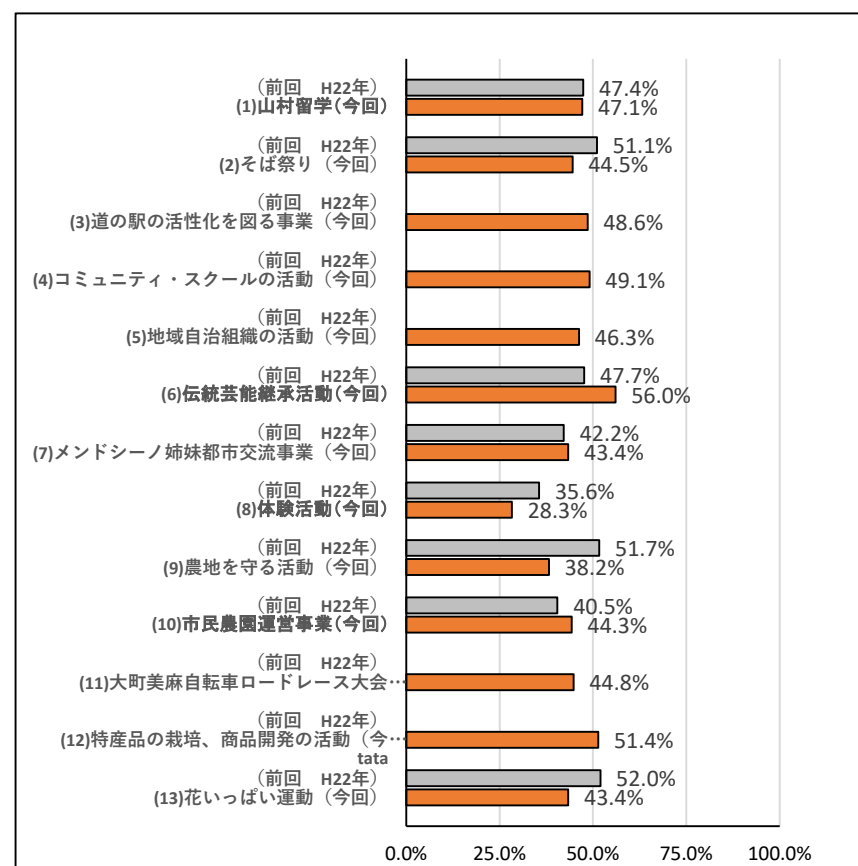
(5) 質問2-5 主要事業の「行政支援必要度」

行政の支援が必要考えられる事業の割合は、平均で59.0%であり、前回調査と比較してもほとんどの事業で増加傾向となっていることから、回答割合が増加した背景について検討が必要と考えられる。



(6) 質問2-6 主要事業の「他地域との連携可能性」

他地域との連携可能性については、平均で45.0%と前回平均(46.0%)と同程度となっている。



質問2 美麻地区で行われている様々な活動に対する、あなたの考えをおたずねします。

その他の意見（自由記述）

- ▶ 空家や耕作放棄地の利用を促進する事業や活動があればいいと思う。（20代）
- ▶ 小川村のようにヤギを買い補助金が出る制度もうらやましいので、やってほしい。（20代）
- ▶ 草刈の補助金を増やしたり、道の整備の自力でやる場合お金が出るようにしてほしい。（20代）
- ▶ 住民数に対してイベントや、やることが多すぎる気がする。ボランティアとして住民を駆り出すのはやめてほしい。やるなら有料ボランティアにして欲しい。（20代）
- ▶ いろいろの事業に計画立て、実行してもらうことに感謝です。（80代）
- ▶ 農地がだんだん荒れて木が大きくなり動物が家の近くに寄ってきます。農道は木が大きく茂り車にあたり通れません。休田は大きな木が茂り見通しも悪く山が家の近くに迫ってきているようです。昔の村の姿がありません。何か少しずつで良いのですが、かりはらいの事業は出来ないでしょうか？（80代）
- ▶ 地域活性化の美名のもと、無償ボランティアとして労力を提供すると住民の生活は忙しくなるばかりであると思う。非居住の未利用土地所有者の分の草刈まで住民が負担している。地域活性化活動には住民だけでなく、非居住の土地所有者も責任を負うべきであると考えます。地域が活性化して土地の利用価値が向上した場合、利益を得るのは土地所有者です。（40代）
- ▶ 道の駅のビューを何か販売所に（野菜など、キノコ）変更しませんか？（60代）
- ▶ 特にないが、このままだと美麻が限界集落になってしまうのではないかと思います。（70代）
- ▶ 道の駅を充実すればもっと人が集い色々な事業と少しは展開できるのでは。新町、白馬、小谷等あれだけできるのに？（60代）
- ▶ 大町市の連合自治会に美麻として参加をする必要性を感じない。負担になっている。（60代）
- ▶ 生活していくのに精一杯で地域づくりまで参加するのが重荷にならないようにしてほしい。もっと行政がリードすべきだ。役所に大勢いても役に立たなすぎる。少しへらせ。（50代）
- ▶ 2－1から13全てに於いて、衆和、総意をもって図るべきではないか？（60代）
- ▶ ゴミ袋の件：もう少し細かい説明が欲しい（どうして使えないのか）違う袋と変えてくれるというけれど持っていくのが大変（70代）
- ▶ ぽかぽかランド美遊施設の利用を考慮不十分と思うので美麻地区の利用をどのような形でも良いかと存じますので努力をお願いいたします。例として、おやき恋訪的な催しが欲しい。施設が泣いています。尚、ぽかぽかランド美麻に、もっと働きかけて利用し地区外への来訪を小川・中条の如く、単に駐車・トイレ利用をするのではなく、見習うことが肝心かと思えます。末筆ですが今回の努力に感謝いたします。（80代）
- ▶ 新行のランド（一番上の所）キャンプなど子供と大人と楽しめるようなイベントなど出来たらいいと思います。（60代）
- ▶ 自治会への加入を嫌がる人がおおくっている。特に役員を嫌がる傾向がある、共同の場所を使うことがあるので自治会への加入は大事かとおもいます。（60代）
- ▶ 美麻保育園の園児を増やすために先生の人数を増やしてほしい。未満児が受け入れられなかったり、食物アレルギーの子を受け入れられなければどんどん減って行ってしまうと思う。保育園に子供を預けられないと若い家族は住んでくれない気がする。（30代）

質問2 美麻地区で行われている様々な活動に対する、あなたの考えをおたずねします。

その他の意見（自由記述）

▶ 新行地区の水車、昔は水車を使って製粉が行われていたことを思います。とても懐かしい風景なのでよく写真撮影されている人の姿をみかけます。できたら実際にそばの製粉ができたら・・・そんなことを思いえがいたりしています。その周辺を整備して直売所やお休み処があったらいいな、川辺を少し散歩できたら楽しいな、美麻の美しい風景、散歩道がある、車の心配がなく散歩できる所があれば最高ですね。子供の自由に学習ができるフリースペースもあると大人も一緒に学ぶことができて人々が集まってくるとおもいます。（60代）

▶ 保育園の未満児クラスが今年はゼロになり保育士の数も一人と、まったく自由がありません。定住促進、少子化を考えるのであれば保育士を確保し、保育の質を向上し、未満児を一人でも多く受け入れる体制を整えるべきです。現状ではけん制しあって預けることを躊躇してしまい市内の保育園等に流れて行って閉園になるかと心配です。（30代）

▶ コミュニティスクール事業により、他地区の学校に通学しにくい児童が「美麻なら大丈夫」といい集まってくるのは問題だと思う。コミュニティスクールというよりは色々な課題のある子供たちの受け皿なのではないか。人が増えれば誰でもよいという姿勢を感じる、学校存続には人員確保なのかもしれないが（50代）

▶ 自転車ロードレースコースについて：大塩地区のコースで南村「さくら」横を通り集落南端で鋭角に北に折れるコースは危険と思う。また、大塩地区内に「静かに走らないと迷惑する」というような立て看板が出ていたが、美麻のイメージを悪くしているのではないかと思う。せっかく来てくれる人がいるのだから大黒様から倉品組事務所前を通る従来のコースではいけないのか疑問である。特に看板の表現には再考の余地あり。（80代）

▶ 最近、支所、梨嶺へ行くと前と変わったことがあり、たてまえは駐車場は職員や従業員も中の駐車場を使用していたが直接の関係者は山側の駐車場を使用し中央の駐車場は外来者専用としている。大変良い考えだと思う。順番となっている地区長の折、広報（市）社協、議会だよりほか広報が多くあるが「右とじ、左とじ」とそれぞれ異なり纏めて配布するのにも手間がかかる。広報（市）と同様に統一できないか、整理する側からみると大変便利となるが。（80代）

▶ 美麻小中学校は、子育て世代にとっても人気があるときいています。質問1-3に書いたように食を大事にしている人が私の周りにもたくさんいるのですがそういう人にとって給食は気になる事の一つなので調味料や添加物が入っていないものを使用するなどして魅力をアピールするのも手だとおもいます。子供がアレルギーがあるので材料等何を使っているのかプリントで届くのですが個人的にあまり食べさせたくないものが入っておりもったいないと思います。自然も多く先生もとても一生懸命やられている印象があります。こうゆうところの良さをアピールして田舎へ少しでも多くの方に来ていただけたらと思います。池田町の八寿恵荘で無添加で材料にこだわったおいしいお弁当を今、販売しているようでとてもおいしかったです。参考にしてみたいかと思いますが。花いっぱい活動はあまり意味がないように思います、なにか名所のようなものがあればいいのではないかと思います、桜など。道の駅が地元の方もよそから来た方も楽しめるようなものになるといいのかなど思います。場所も駐車場も広いだけにとってももったいないと思います。（40代）

質問2 美麻地区で行われている様々な活動に対する、あなたの考えをおたずねします。

その他の意見（自由記述）

▶ 何でもやり続けることに意味があると思います。ただ、相手やお客さんが喜んだり、満足できるよう最善の努力をしないと伝わりません。心を込めたことは伝わります。そして、またこの村へ「何だか分からないけど、ホッとしたもの」を求めて訪れます。この先、地方が見直され人の流れも変わるといわれています。役場の方も先を見越して「夢」を、語り、熱い想いをすてないでほしい。高齢になってもできることはたくさんあります。この先、元気な村になるよう協力していきたいと思う。（60代）

▶ 今年はコロナのため、花が植えられないので大変淋しいです。遅くも少しくらい、植えてほしかったです。（80代）

▶ 人を増やす、都市との交流などは、一過性な事業であり根本的な解決策は無いのでは？リタイアした住民が（60～80歳）新たな投資をすることなく、米かそばを作って出荷（信者なくてもOK）して、健康寿命を伸ばし次世代に継承するような集団営農（個人農業でない）を支援していくことが良いのでは？他の地から美麻に住み、いろいろ言って（行政を躍らして）いつの間にかいなくなった人を多く知っています。チャレンジは必要かもしれませんが、自らの満足のためのチャレンジ支援は違うのでは？（60代）

▶ 猿、シカ、カモシカ、イノシシ等々作物被害が多くなり、作る元気もなくなります。楽しみも減ってしまいますので、どうにか対処してほしいです！（60代）

▶ 農作業をしていくうえで、野生動物（サル）の出没がある地区では、県指定猟具禁止区域があり、銃での発砲は出来ない。この禁猟区域を外す時が来ているのではないか。（区全体の問題でもあるが？）（70代）

▶ 自然豊かな田舎で静かに暮らしたい。地域のイベントでにぎやかだったり危険なものは遠慮したい（自転車レース等）（60代）

▶ 道路に花が咲くことは大切です、続けると良いと思う。大町は観光地なので道は清潔に、（以前よりずっときれいになった）山留の子どもを増やし後にその家族が移住することはないのか？ かつて中学校を尋ねたことがあったがよく教育されている、小さな学校ですべての行事を行う事の大切さを感じさせられた。文句を言ったら切りがないのです、現在私は満足して生活しています。（80代）

▶ 美麻源流太鼓の会員集めに苦労している面があります。昔は保育園で太鼓を教えていたと聞き、太鼓に触れる機会が親子ともあったようです。年に数回そういった取り組みがあれば、伝統文化の存続にもつながるのではないかと考えます。小中一貫校で手厚いフォローや教育熱心な美麻の学校にとっても魅力を感じます。ただ、高校、大学など年齢が上がるにつれて、通学への移動の距離が学生、親に重い負担になっていると思います。美麻地区特別の助成などあれば、大町市内への流出も抑えられるのではないかと思います。道の駅がもっと盛り上がる様に、美麻地区内の農産物や特産品、市内の特産品などもっと大々的なイベントにしてはどうかと思います。（30代）

▶ 花いっぱい活動については、マリーゴールドより菜の花や向日葵のほうがいい。それか桜の木を植えたらどうか。美麻と小川村を比べると小川村は魅力的に映る。小川を参考にしたらどうか。（30代）

▶ 家のこと（農業ですが）で頭一杯です。農業で（村おこし）美麻地区ができればいいなと思いますが、昔程、雪多くないし暖かいし、（地球温暖化による）何かいい知恵ないかなあとは思いますが。（60代）

▶ 高齢化の時代に合った事業に内容を見直したり、提案する時に来ている。委員会の活動に期待したい。（70代）

5. 主要事業の状況 (1/5)

(1) 山村留学

- 実施主体 (公財) 育てる会
- 事業開始年度 平成4年度
- 振興計画の位置づけ 有
 - ・令和2年度は、長期留学生が美麻小中学校に14人通っている。
 - ・大部分の評価項目で全事業平均（今回）、前回数値を上回っている。
 - ・「⑤行政支援必要度」が68.1%と13事業中1位となっている。
 - ・前回調査との比較で、②運営に参加したり応援したいと考えている人の割合が大きく増加（16.1ポイント）している。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
① 認知度	89.9%	85.9%	4.0%
② 参加経験度	37.6%	30.5%	7.1%
③ 地域活性化への貢献度	53.7%	44.0%	9.7%
④ 運営参加希望度	41.7%	25.6%	16.1%
⑤ 行政支援必要度	68.1%	57.5%	10.6%
⑥ 他地域との連携可能度	47.1%	47.4%	-0.3%

(2) そば祭り

- 実施主体 新行そばを守る会
- 事業開始年度 昭和47年度
- 振興計画の位置づけ 無
 - ・①認知度が93.7%と13事業中1位となっている。
 - ・前回調査との比較で、「④運営参加希望度（運営に参加したり応援したいと考えている人の割合）」が大きく増加（13.2ポイント）している。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
①	93.7%	94.0%	-0.3%
②	47.4%	49.1%	-1.7%
③	56.6%	48.6%	8.0%
④	47.4%	34.2%	13.2%
⑤	56.9%	43.4%	13.5%
⑥	44.5%	51.1%	-6.6%

(3) 道の駅の活性化を図る事業 (前回項目なし)

- 実施主体 美麻地域づくり会議ほか
- 事業開始年度 平成18年度
- 振興計画の位置づけ 有
 - ・「②参加経験度」が42.0%と高いのに対して、「③地域活性化への貢献度」は13事業中11番目（35.3%）と平均を下回る低い評価となっている。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
①	74.4%	—	—
②	42.0%	—	—
③	35.3%	—	—
④	43.1%	—	—
⑤	59.5%	—	—
⑥	48.6%	—	—

5. 主要事業の状況 (2/5)

(4) コミュニティ・スクールの活動 (前回項目なし)

- 実施主体 美麻小中学校学校運営協議会、PTA、学校支援隊ほか
- 事業開始年度 平成26年度
- 振興計画の位置づけ 有
 - ・「③地域活性化への貢献度」47.1%、「④運営参加希望度（運営に参加したり応援したいと考えている人の割合）」46.6%と高い結果に対して「②参加経験度」は27.3%と平均を下回り低い結果となっている。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
① 認知度	73.6%	—	—
② 参加経験度	27.3%	—	—
③ 地域活性化への貢献度	47.1%	—	—
④ 運営参加希望度	46.6%	—	—
⑤ 行政支援必要度	62.1%	—	—
⑥ 他地域との連携可能度	49.1%	—	—

(5) 地域自治組織の活動 (前回項目なし)

- 実施主体 美麻地域づくり会議
- 事業開始年度 平成18年度
- 振興計画の位置づけ 有
 - ・「③地域活性化への貢献度」41.1%、「④運営参加希望度（運営に参加したり応援したいと考えている人の割合）」47.1%と高い結果に対して「②参加経験度」は29.3%と平均を下回り低い結果となっている。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
①	85.9%	—	—
②	29.3%	—	—
③	41.1%	—	—
④	47.1%	—	—
⑤	66.4%	—	—
⑥	46.3%	—	—

(6) 伝統芸能継承活動

- 実施主体 源流美麻太鼓の会ほか
- 事業開始年度 平成元年度
- 振興計画の位置づけ 有
 - ・「③地域活性化への貢献度」60.3%、「⑥他地域との連携可能度」56.0%が、13事業中第1位となっている。
 - ・「④運営参加希望度（運営に参加したり応援したいと考えている人の割合）」が前回と比較して51.1%と20ポイント以上増加している。
 - ・源流美麻太鼓の会を中心とした活動が、幅広い世代から支持を得ている。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
①	87.9%	83.3%	4.6%
②	35.9%	24.4%	11.5%
③	60.3%	50.6%	9.7%
④	51.1%	31.0%	20.1%
⑤	65.5%	52.3%	13.2%
⑥	56.0%	47.7%	8.3%

第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

5. 主要事業の状況 (3/5)

(7) メンドシーノ交流事業

○実施主体 メンドシーノ姉妹都市交流実行委員会

○事業開始年度 平成4年度

○振興計画の位置づけ 有

- ・「②参加経験度」が58.6%と13事業中第1位、「①認知度」が93.4%と大きく増加している。
- ・一方で「③地域活性化への貢献度」は、50.9%（前回比-1.7ポイント）と若干低下している。
- ・「④運営参加希望度」が、48.6%（前回比11.8ポイント増）、「⑤行政支援必要度」も65.5%（前回比13.2ポイント増）と大きく増加している。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
① 認知度	93.4%	90.2%	3.2%
② 参加経験度	58.6%	42.5%	16.1%
③ 地域活性化への 貢献度	50.9%	52.6%	-1.7%
④ 運営参加希望 度	48.6%	36.8%	11.8%
⑤ 行政支援必要 度	65.5%	52.3%	13.2%
⑥ 他地域との連 携可能度	43.4%	42.2%	1.2%

(8) 体験活動（学生の夏期合宿など）

○実施主体 新行夏季合宿村、各民宿

○事業開始年度 昭和37年度

○振興計画の位置づけ 無

- ・前回と比較して「⑥他地域との連携可能度」以外の項目の回答割合が増加している。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
①	57.8%	53.7%	4.1%
②	9.8%	8.6%	1.2%
③	22.4%	22.1%	0.3%
④	21.0%	17.2%	3.8%
⑤	37.9%	34.2%	3.7%
⑥	28.3%	35.6%	-7.3%

(9) 農地を守る活動

○実施主体 各地区営農団体等

○事業開始年度 -

○振興計画の位置づけ 有

- ・前回と比較して「①認知度」47.4%（前回比△23.9ポイント）をはじめ、多くの項目で減少している。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
①	47.4%	71.3%	-23.9%
②	17.0%	20.1%	-3.1%
③	23.3%	36.2%	-12.9%
④	31.6%	29.0%	2.6%
⑤	54.3%	54.1%	0.2%
⑥	38.2%	51.7%	-13.5%

第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

5. 主要事業の状況 (4/5)

(10) 市民農園運営事業

○実施主体 大町市

○事業開始年度 平成7年度

○振興計画の位置づけ 有

- ・前回と比較して全ての項目で回答割合が増加している。
- ・市民以外を対象としている事業でありながら、「②参加経験度」「④運営参加希望度割合が前回との比較で増加しているのは、市民農園の利用を経て美麻地区に定住した人が一定数いることに因るものと考えられる。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
① 認知度	93.4%	75.9%	17.5%
② 参加経験度	33.0%	25.9%	7.1%
③ 地域活性化への貢献度	40.8%	37.4%	3.4%
④ 運営参加希望度	32.5%	26.7%	5.8%
⑤ 行政支援必要度	59.8%	49.7%	10.1%
⑥ 他地域との連携可能度	44.3%	40.5%	3.8%

(11) 大町美麻ロードレース大会 (前回項目なし)

○実施主体 大町美麻自転車ロードレース大会実行委員会

○事業開始年度 平成19年度

○振興計画の位置づけ 有

- ・全事業の平均と比較すると「①認知度」が41.4%と平均を31.8ポイント下回っている。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
①	41.4%	—	—
②	41.4%	—	—
③	45.7%	—	—
④	39.7%	—	—
⑤	53.2%	—	—
⑥	44.8%	—	—

(12) 特産品の栽培、商品開発の活動 (前回項目なし)

○実施主体 菜の花生産組合、美麻地域づくり会議ほか

○事業開始年度 —

○振興計画の位置づけ 有

- ・全事業の平均と比較すると「①認知度」が22.7%と平均(73.2%)を50.5ポイント下回っている。
- ・「⑥他地域との連携可能度」は57.8%と平均を超えて高くなっている。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
①	22.7%	—	—
②	40.5%	—	—
③	40.5%	—	—
④	44.3%	—	—
⑤	57.8%	—	—
⑥	57.8%	—	—

第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

5. 主要事業の状況 (5/5)

(13) 花いっぱい運動

○実施主体 各自治会

○事業開始年度 平成18年

○振興計画の位置づけ 有

・「②参加経験度」は69.8%と13事業中第1位となっており、「①認知度」89.8%とともに、前回調査結果を上回っている。

・①②以外の項目については、全回調査結果を下回る結果となっている。

	今回 A 令和2年度	前回 B 平成22年度	ポイント差 (A-B)
① 認知度	89.9%	84.8%	5.1%
② 参加経験度	69.8%	62.9%	6.9%
③ 地域活性化への 貢献度	44.0%	51.7%	-7.7%
④ 運営参加希望 度	52.9%	53.4%	-0.5%
⑤ 行政支援必要 度	60.3%	64.1%	-3.8%
⑥ 他地域との連 携可能性	43.4%	64.1%	-20.7%

6. 事業評価

(3) 応援度評価軸×発展度評価軸の設定

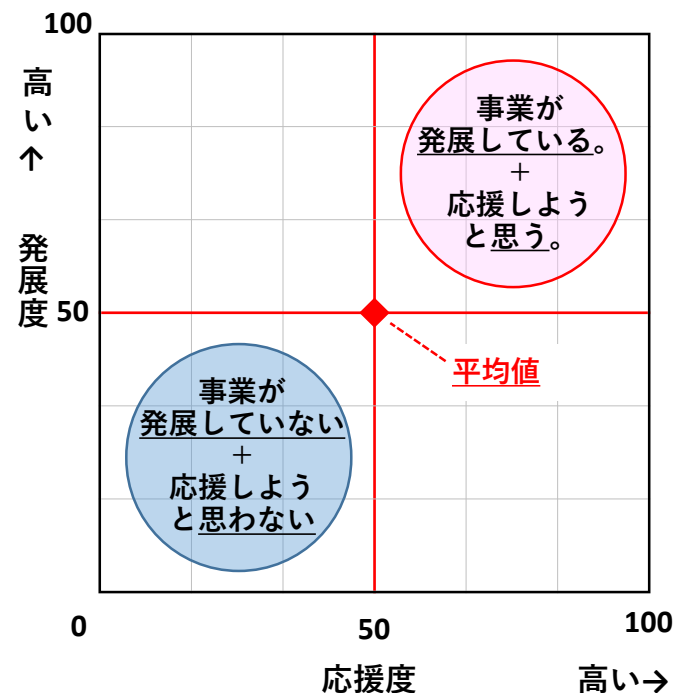
「応援度」と「発展度」の2つの評価軸を設定し、各事業について評価を行う。

イ) 発展度 当該事業が地域の活性化につながっており、今後、事業の発展を期待しているか、読み取る指標。

$$\text{発展度} = \frac{\left(\text{③地域活性化への貢献度} + \text{⑥他地域との連携可能度} \right) \text{の回答数}}{\text{回答総数}} \times 100$$

ア) 応援度 住民自ら、あるいは行政による事業支援が望ましいと考えている割合を表すもの。
地域住民がどの程度当該事業を応援したいと考えているか読み取る指標。

$$\text{応援度} = \frac{\left(\text{④運営参加希望度} + \text{⑤行政支援必要度} \right) \text{の回答数}}{\text{回答総数}} \times 100$$

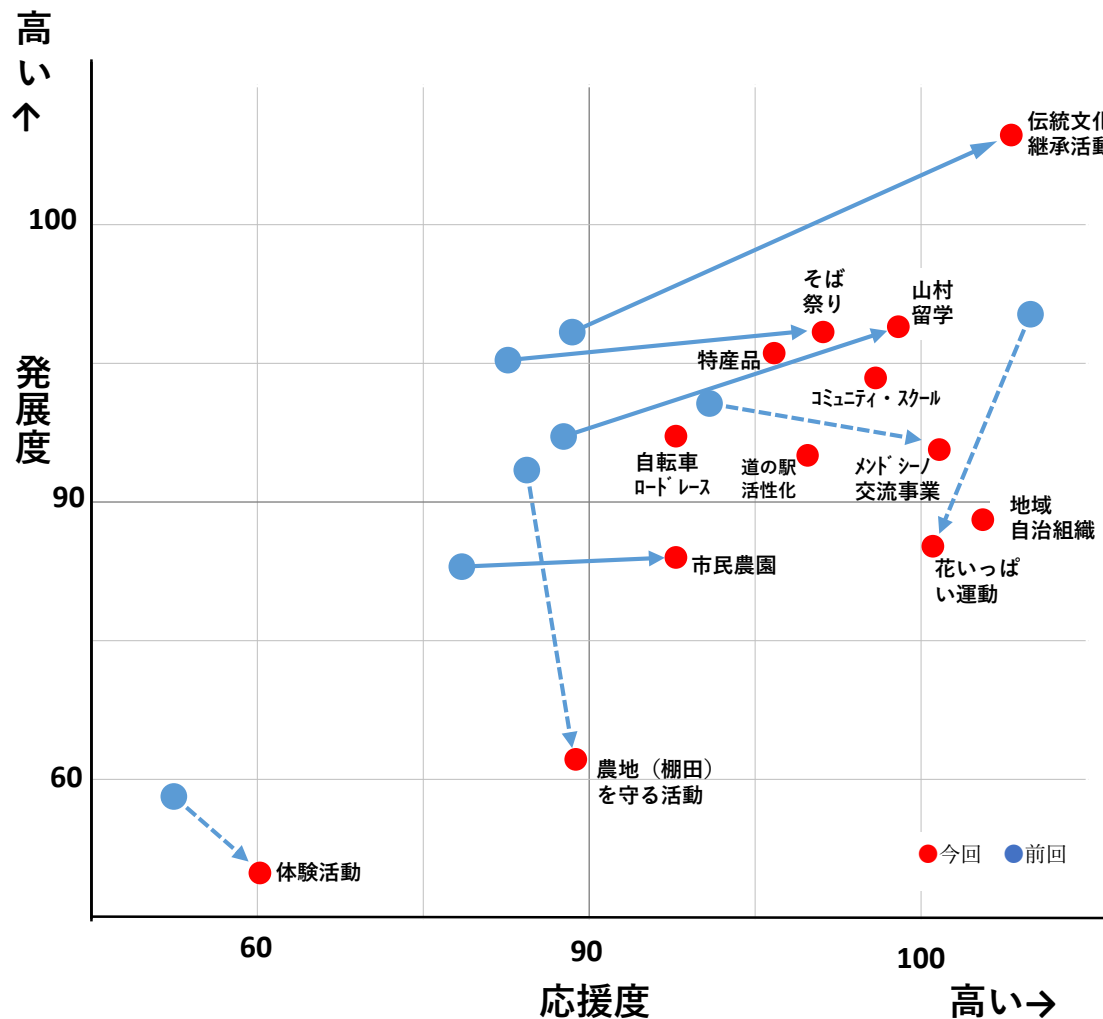


応援度・発展度を算出したものが次の図表である。

前回調査との比較では、ほとんどの事業で応援度、発展度とも上昇しており、各事業が成果を上げている状況が伺える結果となった。

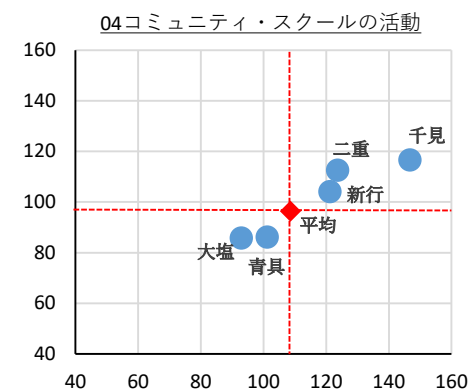
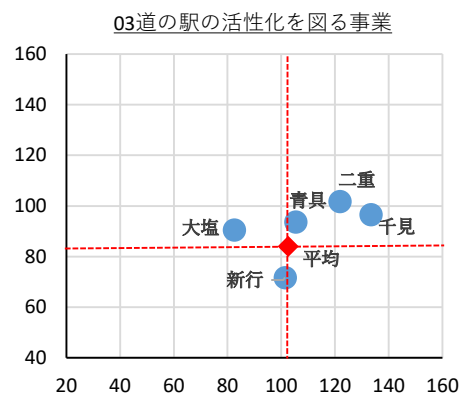
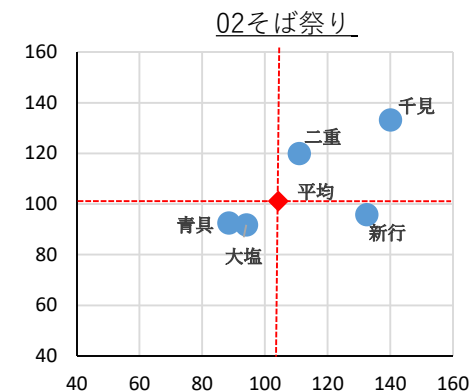
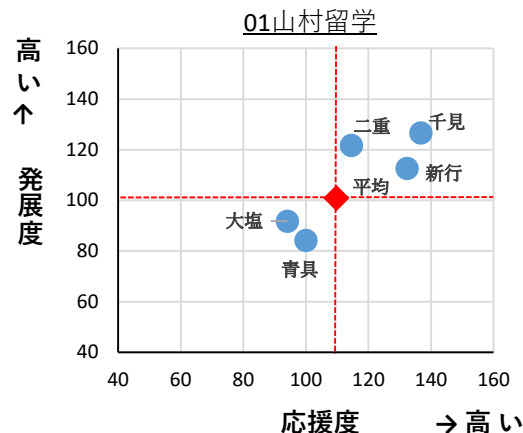
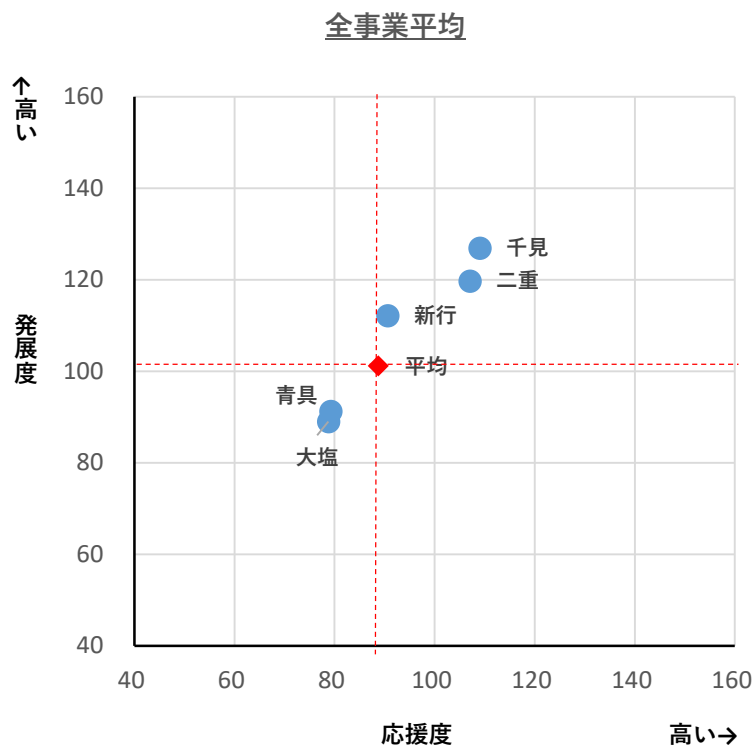
	今 回		前 回	
	応援度	発展度	応援度	発展度
(1)山村留学	109.8	100.9	83.0	91.4
(2)そば祭り	104.3	101.1	77.6	99.7
(3)道の駅の活性化を図る事業	102.6	83.9	—	—
(4)コミュニティ・スクールの活動	108.6	96.3	—	—
(5)地域自治組織の活動	113.5	87.4	—	—
(6)伝統芸能継承活動	116.7	116.4	83.3	98.3
(7)メト・シーノ姉妹都市交流事業	114.1	94.3	94.8	94.8
(8)体験活動	58.9	50.7	51.4	57.8
(9)農地を守る活動	85.9	61.5	82.2	87.9
(10)市民農園運営事業	92.2	85.1	76.4	77.9
(11)大町美麻自転車ロードレース大会	92.8	90.5	—	—
(12)特産品の栽培、商品開発の活動	102.0	98.3	—	—
(13)花いっぱい運動	113.2	87.4	117.5	103.7

●最高値 ●最低値

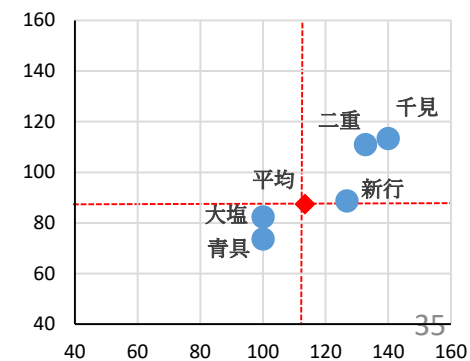


第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

6. 地域づくり事業の評価（自治会別 1/2）



05地域自治組織の活動



○発展度、応援度から見た評価結果

全体的に「高い傾向の自治会」二重、新行、千見

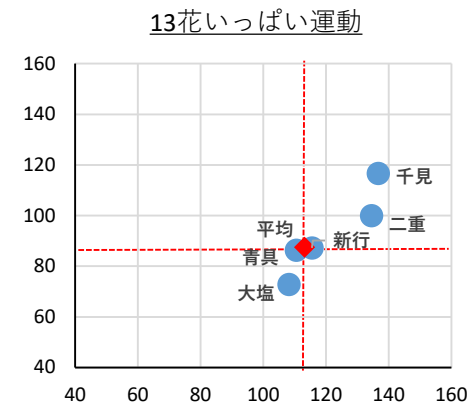
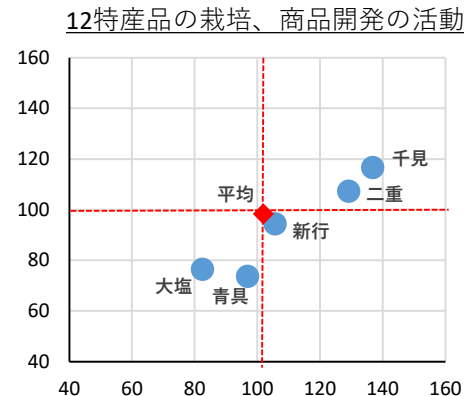
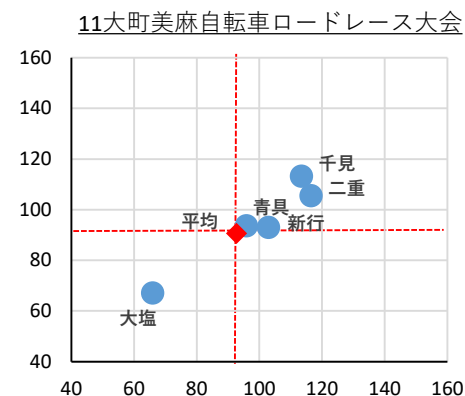
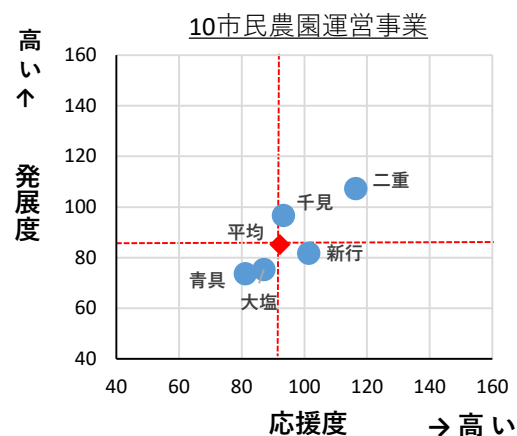
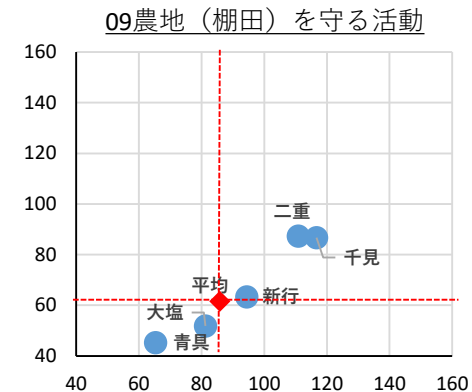
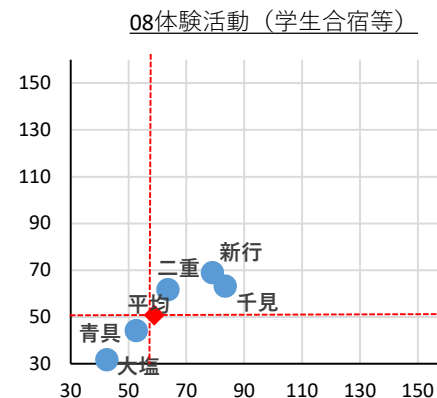
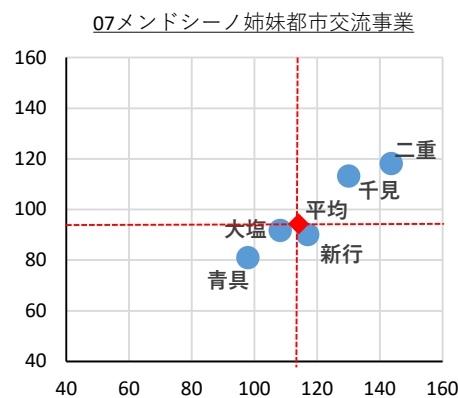
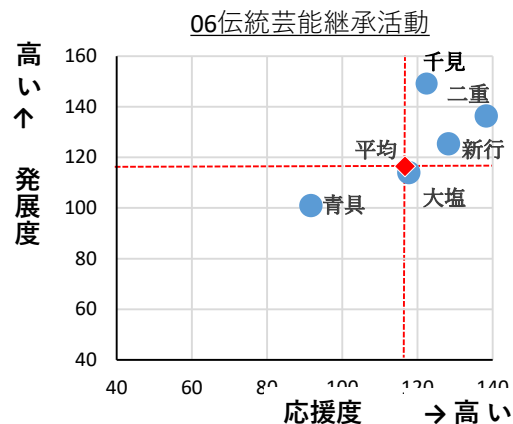
〃 「低い傾向の自治会」大塩、青具 となっている。

○地域で評価の分かれている事業

・大町美麻自転車ロードレース大会（大塩 発展度→低 応援度→低）

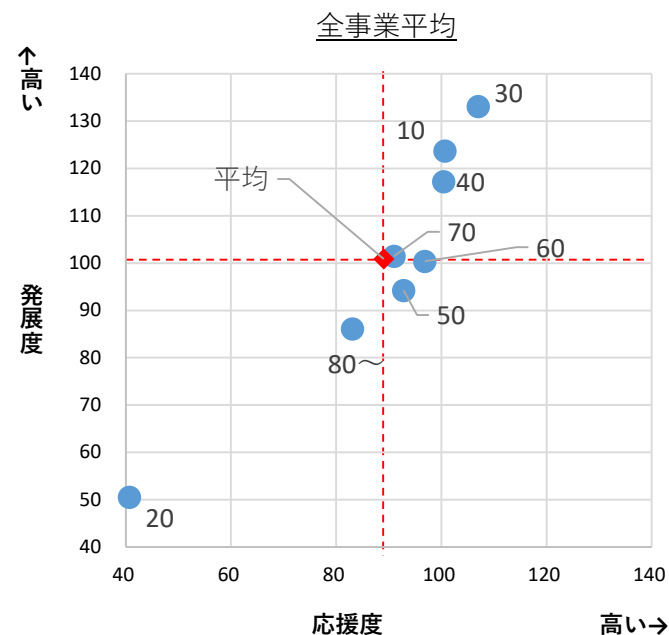
第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

6. 地域づくり事業の評価（自治会別 2/2）

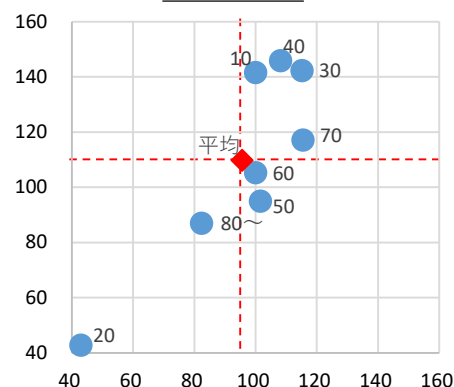


第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

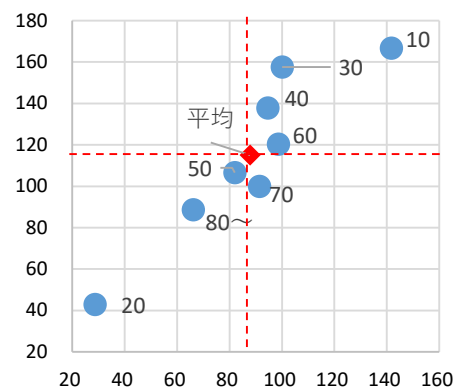
6. 地域づくり事業の評価（年代別 1/2）



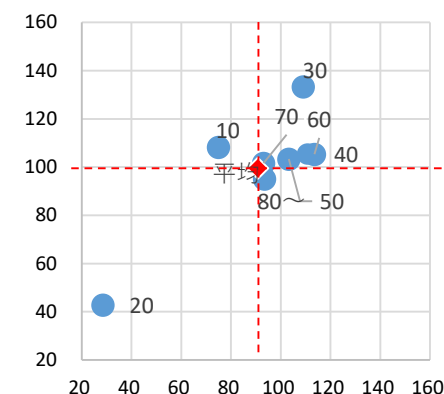
01山村留学



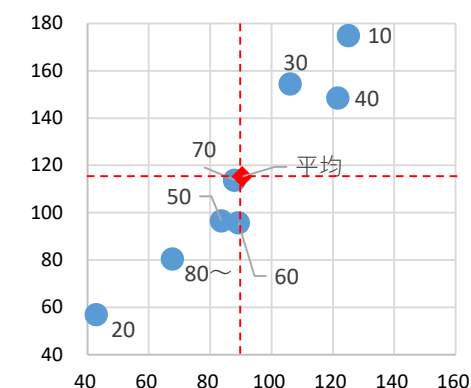
03道の駅の活性化を図る事業



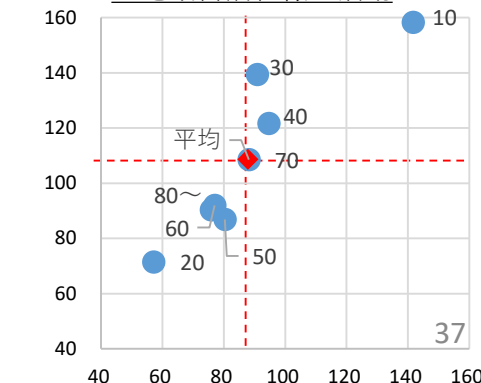
02そば祭り



04コミュニティ・スクールの活動



05地域自治組織の活動



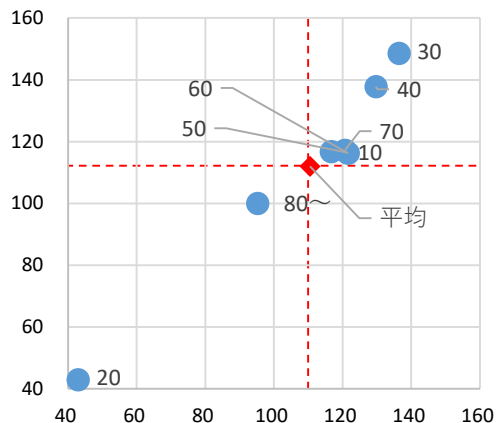
○発展度、応援度から見た評価結果

- ・ 20才代の評価は全ての事業で低い（発展度→低、応援度→低）。
- ・ 10才代、30才代は多くの事業で高い。（発展度→高、応援度→高）
- ・ 10才代（道の駅活性化事業、コミュニティ・スクール、地域自治組織、メンドシーノ姉妹都市交流事業）
- ・ 30才代（伝統芸能継承活動、農地（棚田）を守る活動、市民農園運営事業）

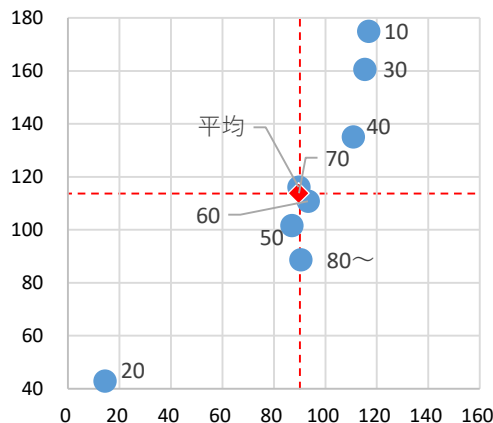
第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

6. 地域づくり事業の評価（地区別 2/2）

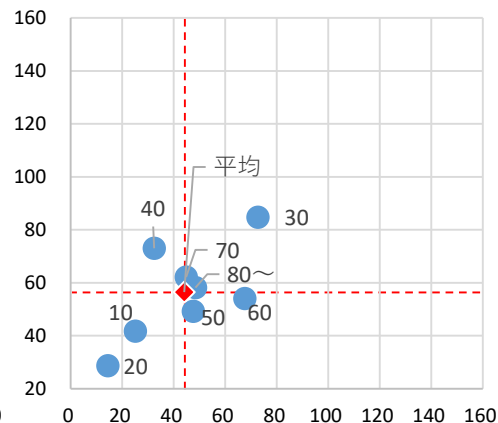
06伝統芸能継承活動



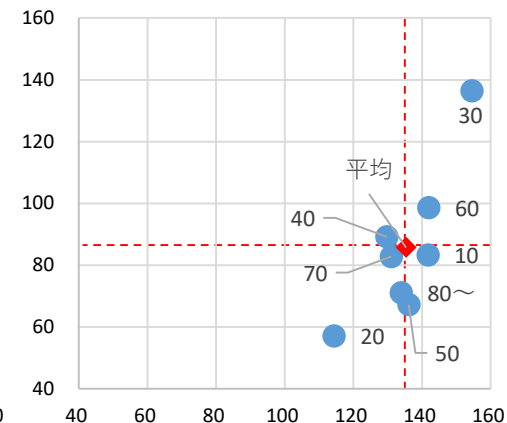
07メンドシーノ姉妹都市交流事業



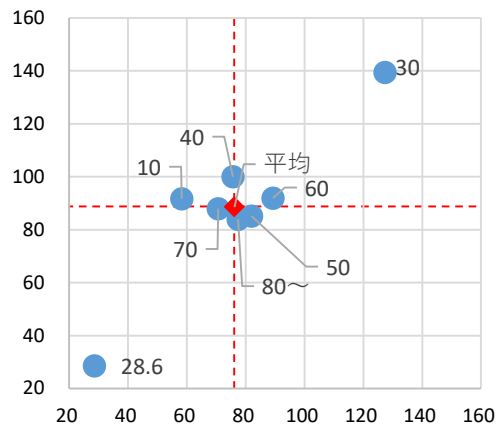
08体験活動（学生合宿等）



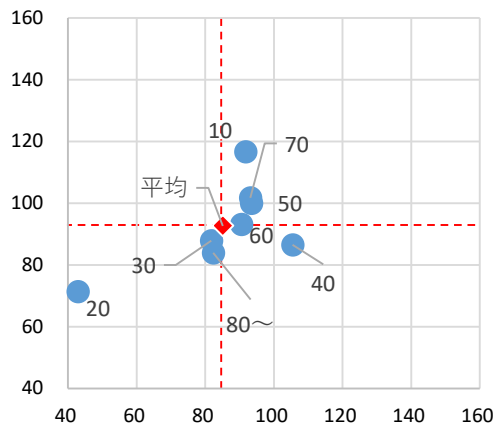
09農地（棚田）を守る活動



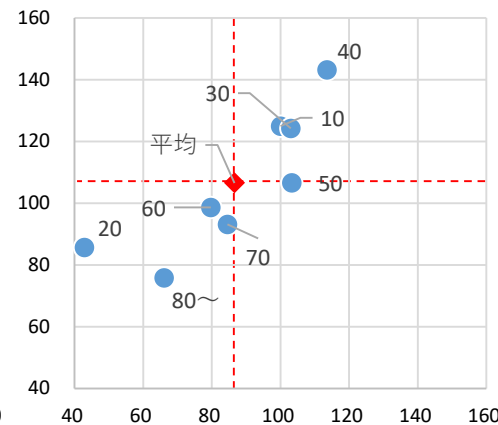
10市民農園運営事業



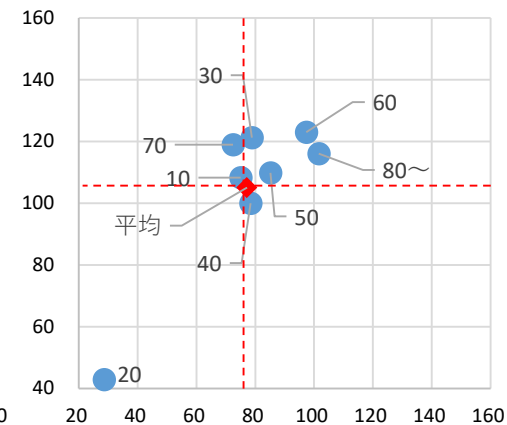
11大町美麻自転車ロードレース大会



12特産品の栽培、商品開発の活動

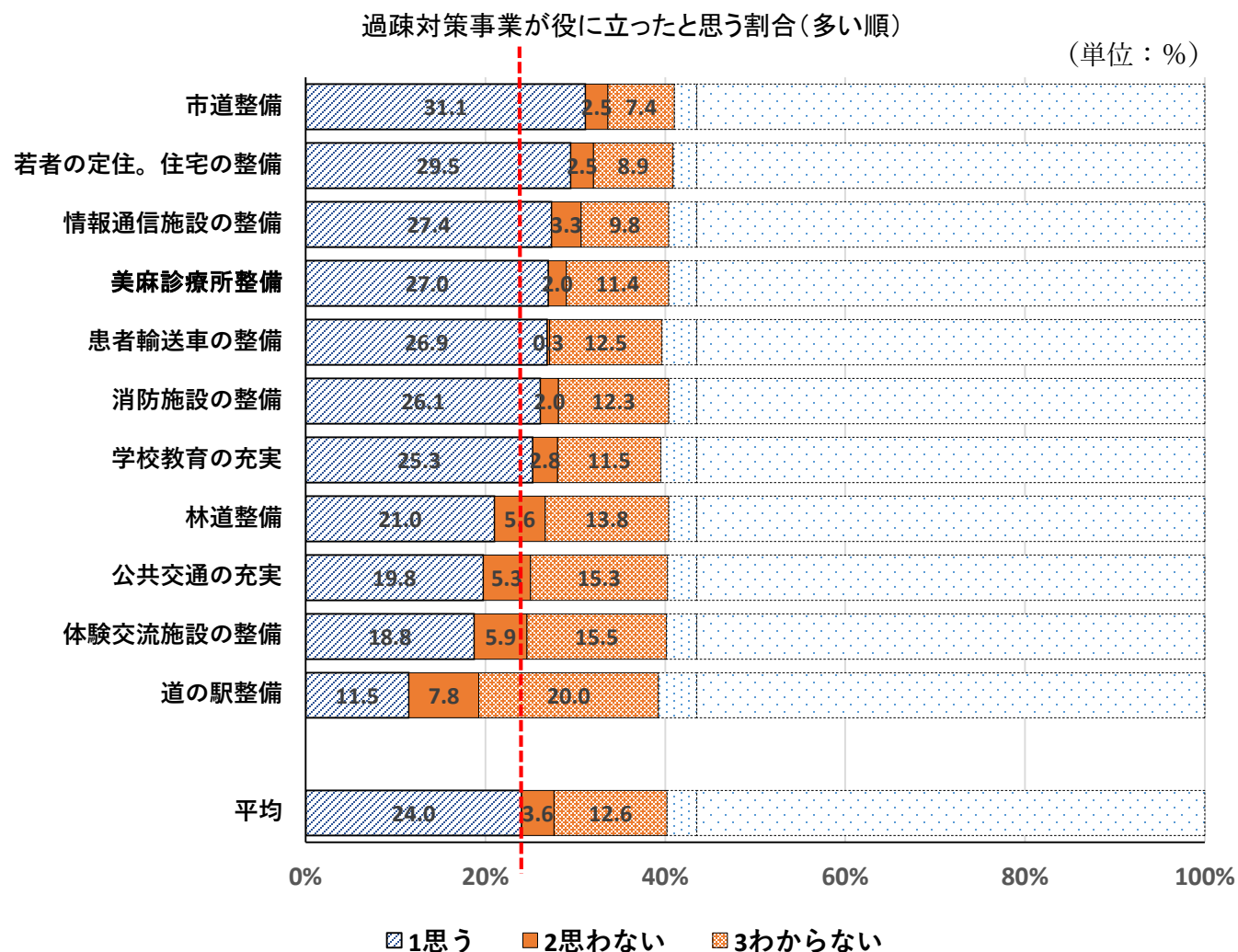


13花いっぱい運動



7. 過疎対策事業の評価

質問3 今まで過疎対策として様々な事業が行われてきましたが、これらの事業が生活や暮らしに役立ったと思いますか。



・「役に立ったと思う」の回答割合の平均は24.0%となっている。

・最も「役に立ったと思う」割合が高いのは「市道整備(31.1%)」となっている。「林道整備(21.1%)」とは大きな差がある。

・最も「役に立ったと思う」割合が低いのは「道の駅整備(11.5%)」となっている。

・住民生活に密着した事業についての回答割合が平均を超えて高い傾向を示している。

第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

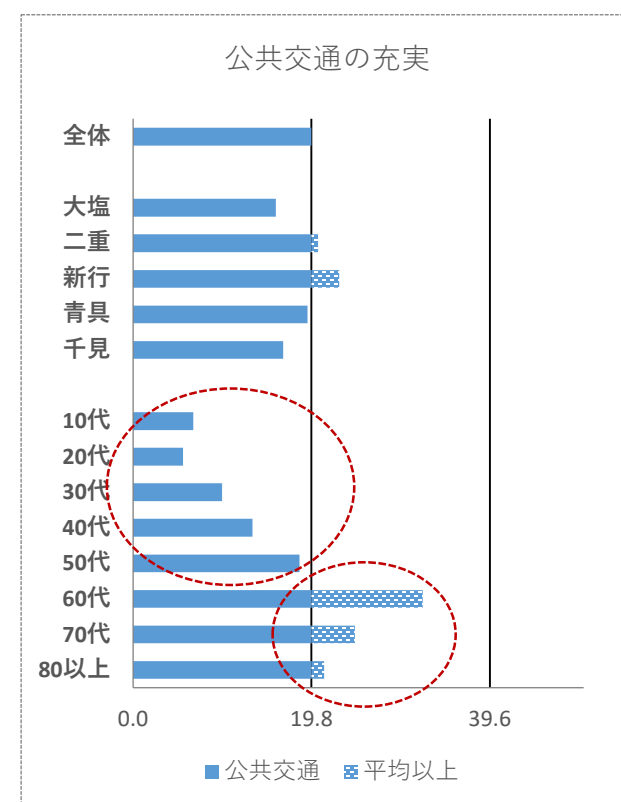
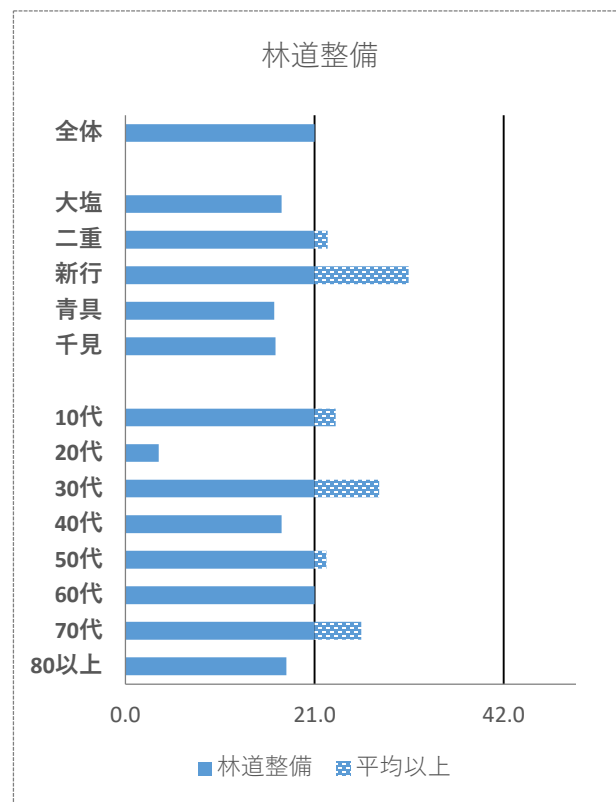
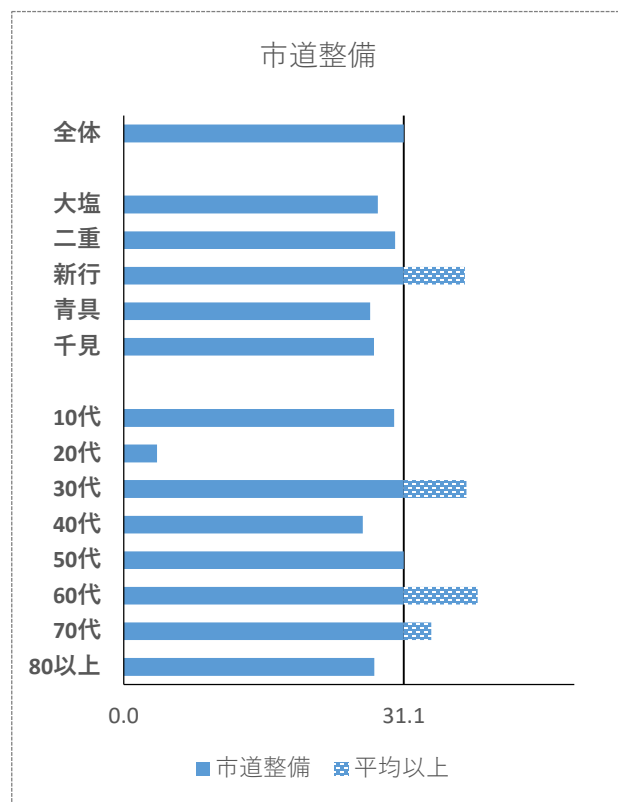
■質問 3 今まで過疎対策として様々な事業が行われてきましたが、これらの事業が生活や暮らしに役立ったと思いますか。

その他の意見（自由記述）

- ▶ 子供が働ける所が少ないので、大町市に企業の誘致を！（60代）
- ▶ 生活者の状況によってニーズは変わる、役立つという感覚も変わる。広く意見を募る場をアンケートも全戸にと思います。（60代）
- ▶ ゆるやかに行きましょう。（60代）
- ▶ 過疎対策は大変難しい問題に思う、現在一人暮らしの年寄りでも子供がいる人が多い、なんとか面倒をみてくれないものかと思う。（60代）
- ▶ 住み始めて間もないのでまだ実感がなくかいとうできませんでした（60代）
- ▶ 住みやすい地区となる事業を期待、応援しています。（50代）
- ▶ 消防無線は美麻のみでお知らせしてもらった方がいいです。自分に関係のない所の放送はなくてもいいです。（40代）
- ▶ 林道が崩れ通行出来なくなっている所があり、早急な整備を望む。（70代）
- ▶ 無記入のところは私自身が理解をしていないのと体験不足（80代）
- ▶ 道普請や草刈作業を集落にさせる事にはもう限界だ。（70代）

第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

■質問 3 今まで過疎対策として様々な事業が行われてきましたが、これらの事業が生活や暮らしに役立ったと思いますか。（地区別、年代別 1/4）

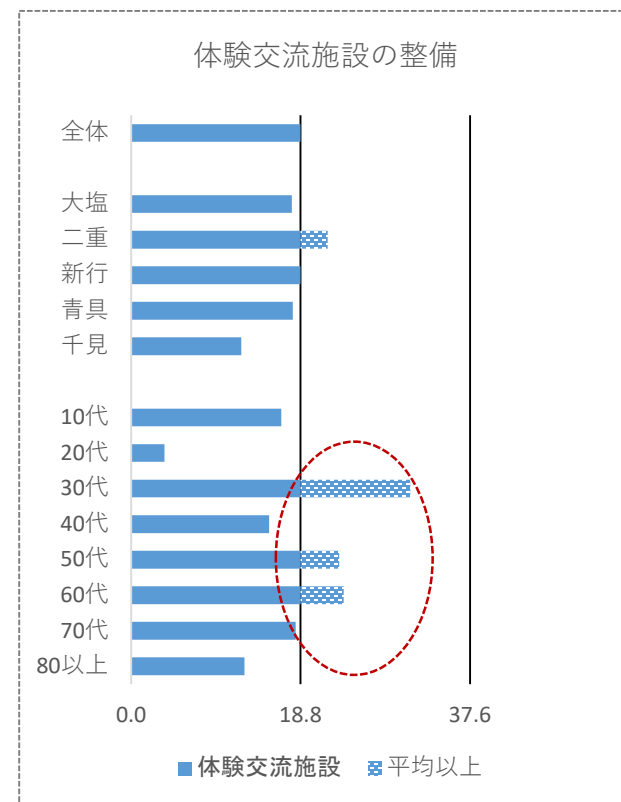
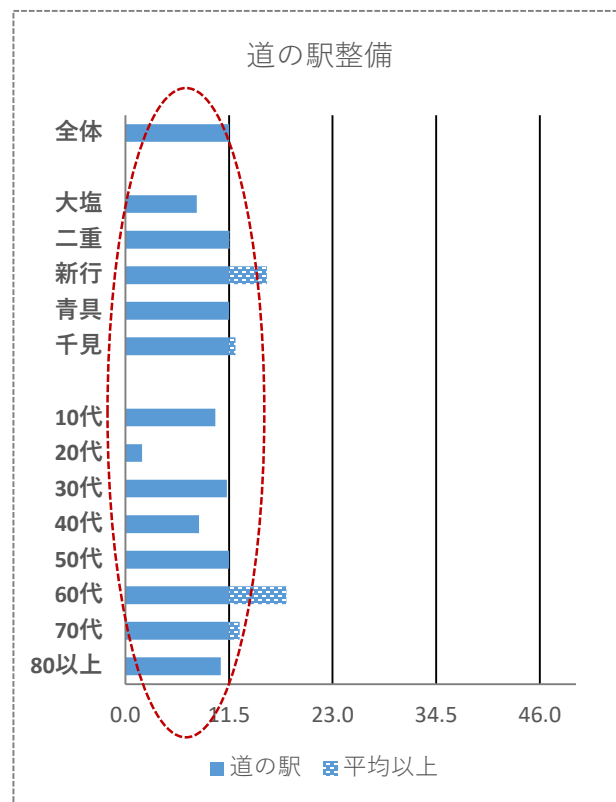
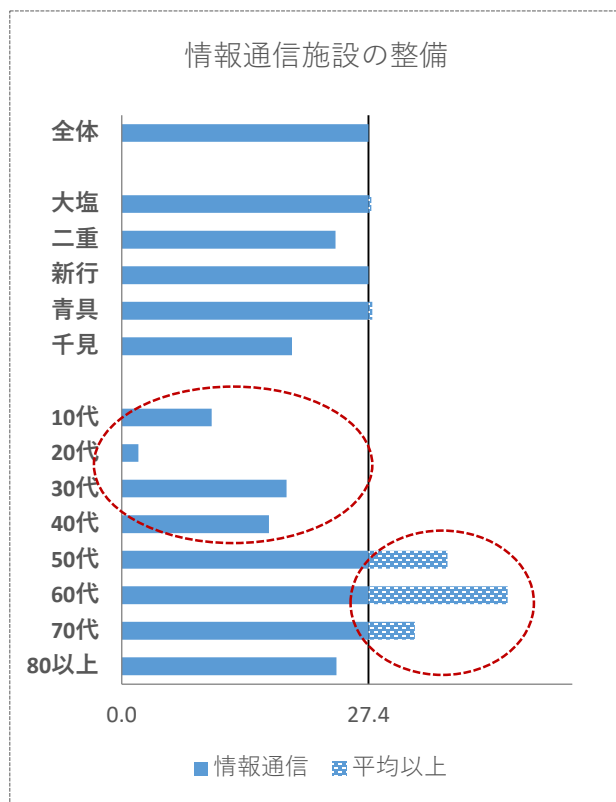


・ 回答の傾向は「市道整備」「林道整備」の回答は地区別、年代別共に似通った傾向を示している。

・ 「役立ったと思う」年代別の回答の傾向は50才代以下では平均を下回り、60才代以上では平均を上回っている。

第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

■質問3 今まで過疎対策として様々な事業が行われてきましたが、これらの事業が生活や暮らしに役立ったと思いますか。（地区別、年代別 2/4）



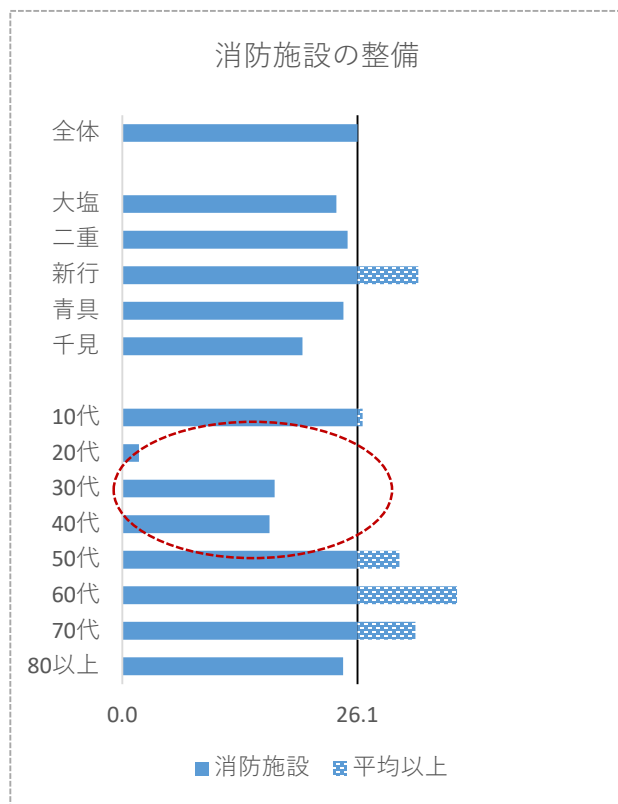
・CATV導入以前や、携帯電話の圏外エリアが多くあった時代を知っている50才代以上では評価が高い。
・スマートフォンの普及により常時インターネット接続環境を必要と考えている世代の満足度は低い結果となっている。

・もっとも評価の低い結果となっている。
・年D内別では60～70才代の評価が高くなっている。

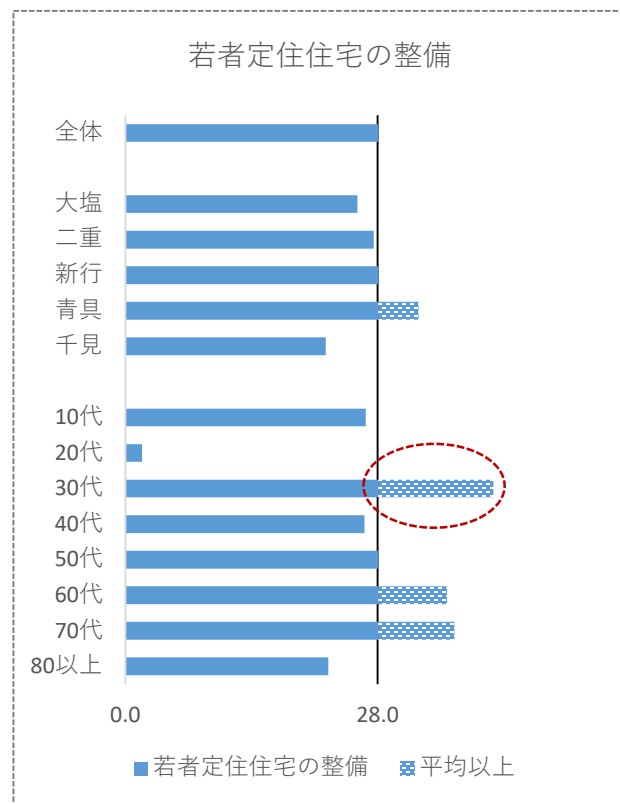
・30～60才代の評価が高くなっている。

第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

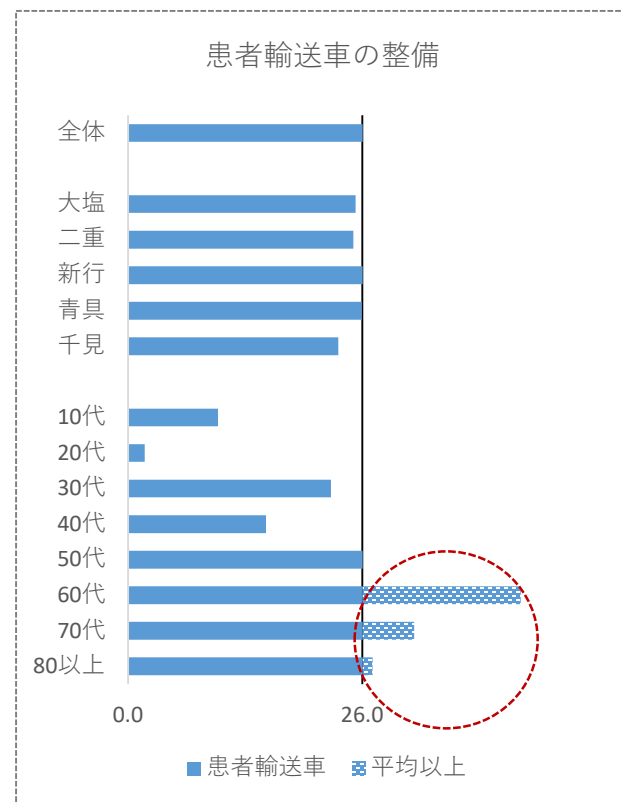
■質問3 今まで過疎対策として様々な事業が行われてきましたが、これらの事業が生活や暮らしに役立ったと思いますか。(地区別、年代別 3/4)



・消防団の中核を構成する20～40歳代の評価低くなっている。



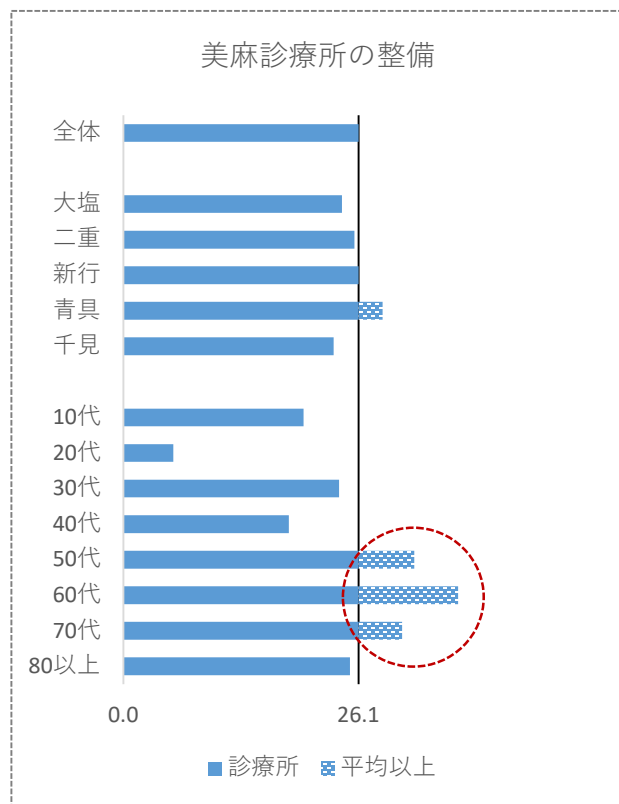
・地区別では青具地区の評価が高い。
・30才代の評価が突出して高い。



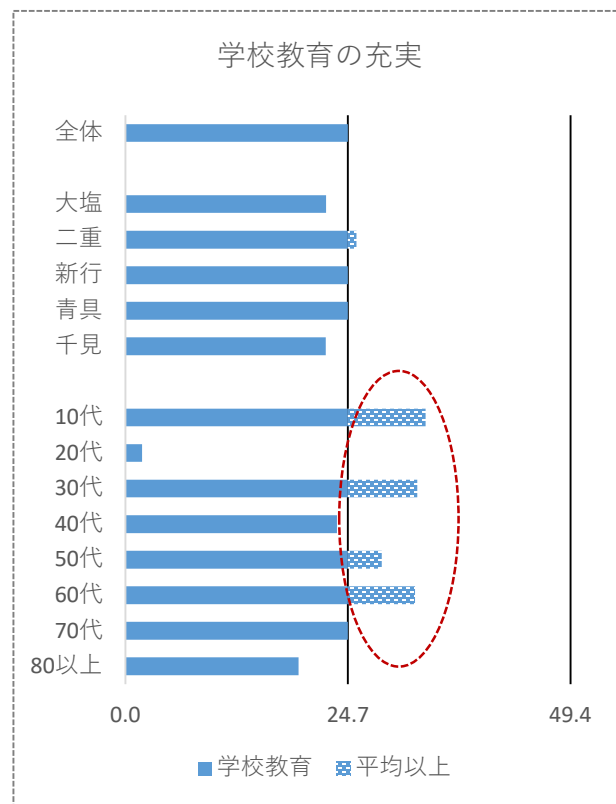
・60才代以上の評価が高い。

第1章 住民意識調査 <美麻地区の振興に関する住民意識調査>

■質問 3 今まで過疎対策として様々な事業が行われてきましたが、これらの事業が生活や暮らしに役立ったと思いますか。(地区別、年代別 4/4)



・ 60才代以上の評価が高い。



・ 幅広い年代での評価が高くなっている。
・ コミュニティ・スクールの卒業生である10才代(16~19才)の評価が高い。

小中学生向け地域づくりアンケートの結果

第1章 住民意識調査 <小中学生向け地域づくりアンケート>

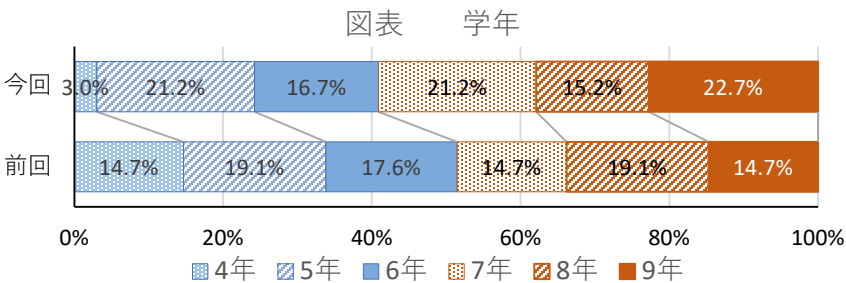
1. 実施状況

(1) 実施概要

美麻地区の将来を担う子ども達の意見を取り入れるため、美麻小中学校に通学する4年生以上の71人に対して、前回（平成22年度実施）と同様のアンケートを実施した。

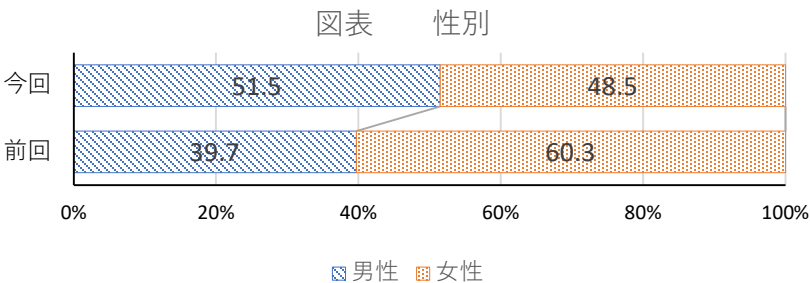
(2) 回収状況 回収率は93%であった。

学年	前回（平成22年度）			今回		
	対象者（人）	回答者（人）	回答率（%）	対象者（人）	回答者（人）	回答率（%）
4年生	10	10	100.0%	2	2	100.0%
5年生	13	13	100.0%	16	14	87.5%
6年生	14	12	85.7%	12	11	91.7%
7年生	11	10	90.9%	15	14	93.3%
8年生	15	13	86.7%	11	10	90.9%
9年生	12	10	83.3%	15	15	100.0%
合計	75	68	90.7%	71	66	93.0%



■ 住んでいる地域

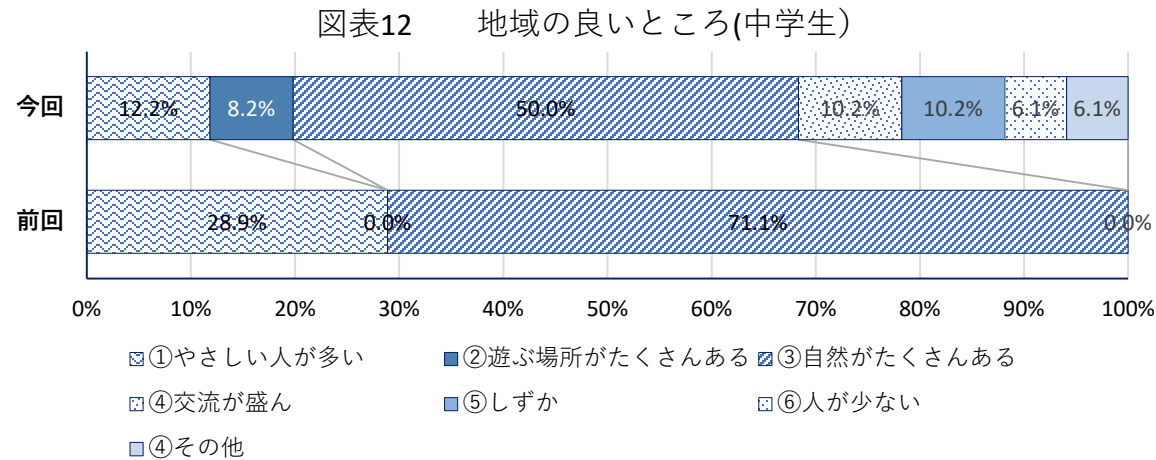
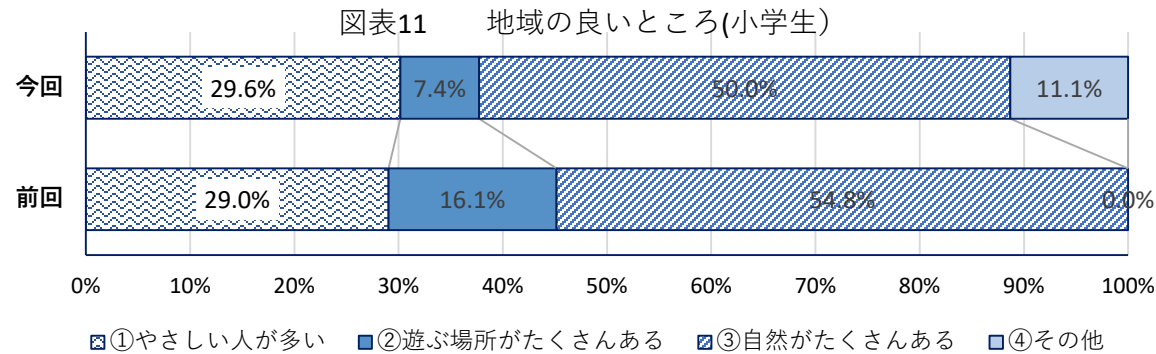
（※山村留学生は「農家さん」の家のある地域として回答。）
平成27年度から小規模特認校制度を導入したことにより、大町市内全域から通学が可能になったことにより、美麻地区外から通学する児童、生徒の割合は全体のおよそ25%となっている。



	小学生	中学生	合 計
地 区 内	18	31	49 (74.2%)
地 区 外	9	8	17 (25.8%)
総 計	27	39	66

設問1. あなたの住んでいる地域の良いところ何ですか？

小学生、中学生共に「③自然がたくさんある」が最も多く、次いで「①やさしい人が多い」となっている。
回答傾向は前回調査時と変化ないが、回答割合は減少している。



設問2 あなたの住んでいる地域で気になることは何ですか？

小学生、中学生とも回答割合が多い項目は前回調査と同様となっている。

「②お店が近くにない」の回答が最も多いが、割合は小学生、中学生とも減少している。

■小学生

	前回	今回	増減
② お店が近くにない	48.6%	37.1%	▲11.5
① 学校までが遠い	8.6%	29.6%	21.0
③ 遊ぶ場所が少ない	17.1%	18.5%	1.4
④ 住んでいる人が少ない	14.3%	11.1%	▲3.2
⑤ そのほか	11.4%	0.0%	▲11.4
無回答	0.0%	3.7%	

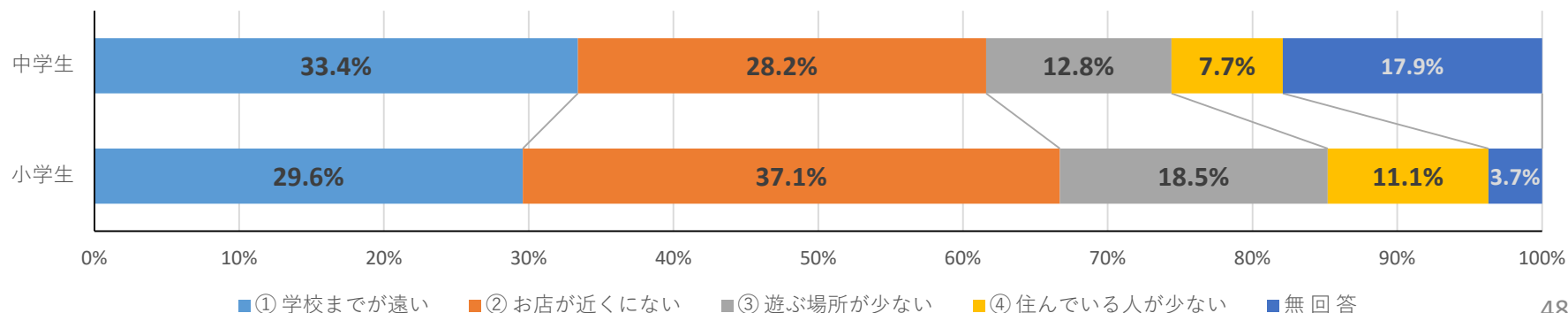
「①学校までが遠い」の割合が29.6%と大幅に増加しているのは、小規模特認校制度を活用して地区外から通学する児童が増加していることが要因と考えられる。

■中学生

	前回	今回	増減
② お店が近くにない	66.7%	33.4%	▲33.3
③ 遊ぶ場所が少ない	3.0%	28.2%	27.9
① 学校までが遠い	9.1%	12.8%	3.7
④ 住んでいる人が少ない	3.0%	7.7%	4.7
⑤ そのほか	18.2%	0.0%	▲18.2
無回答	0.0%	17.9%	

「③遊ぶ場所が少ない」の回答割合が大幅に増加している。

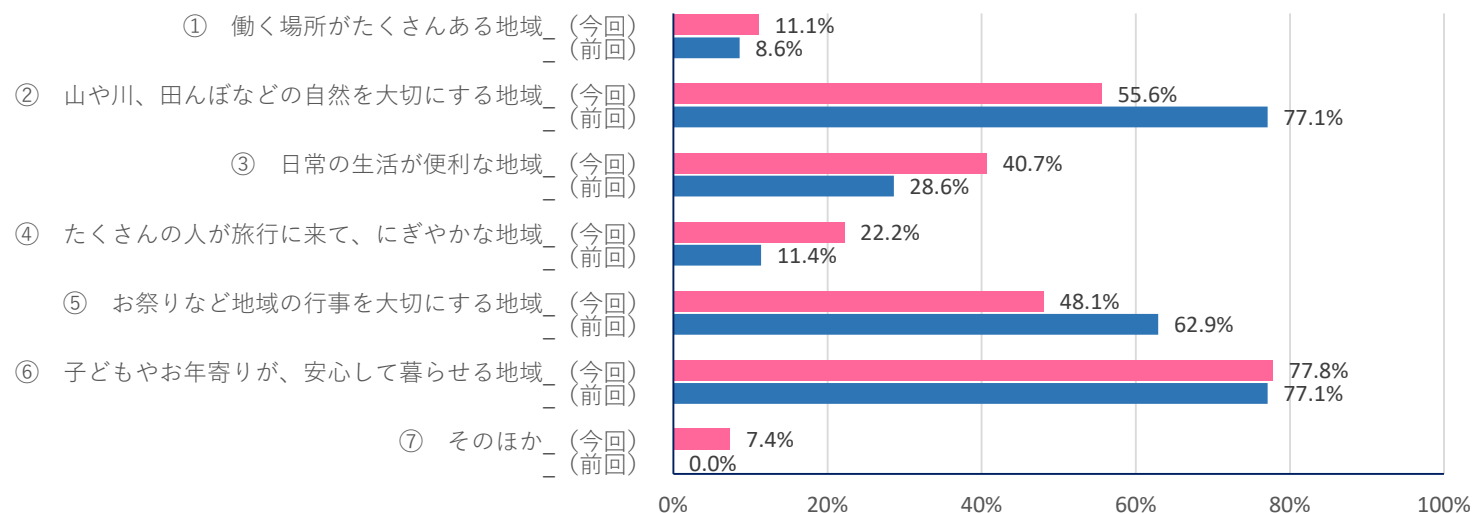
地域で気になること



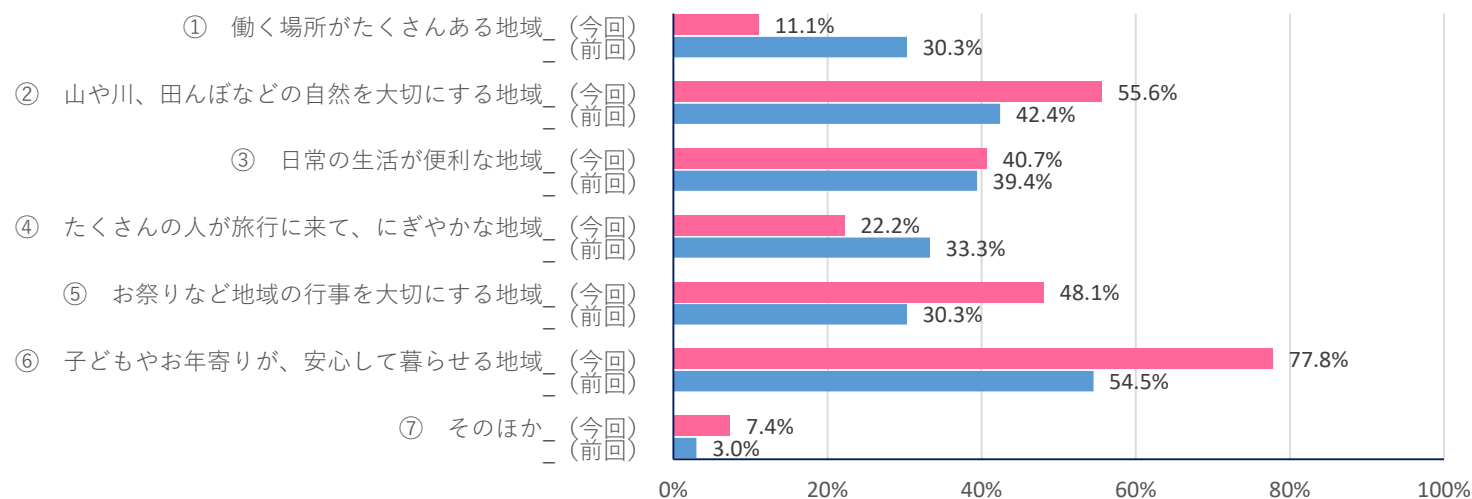
設問3 大人になったとき、住んでいる地域がどうなっていたら良いと思いますか？（○は3つまで）

小学生、中学生ともに「⑥子どもやお年寄りが、安心して暮らせる地域」の回答割合が最も多くなっている。

■小学生



■中学生

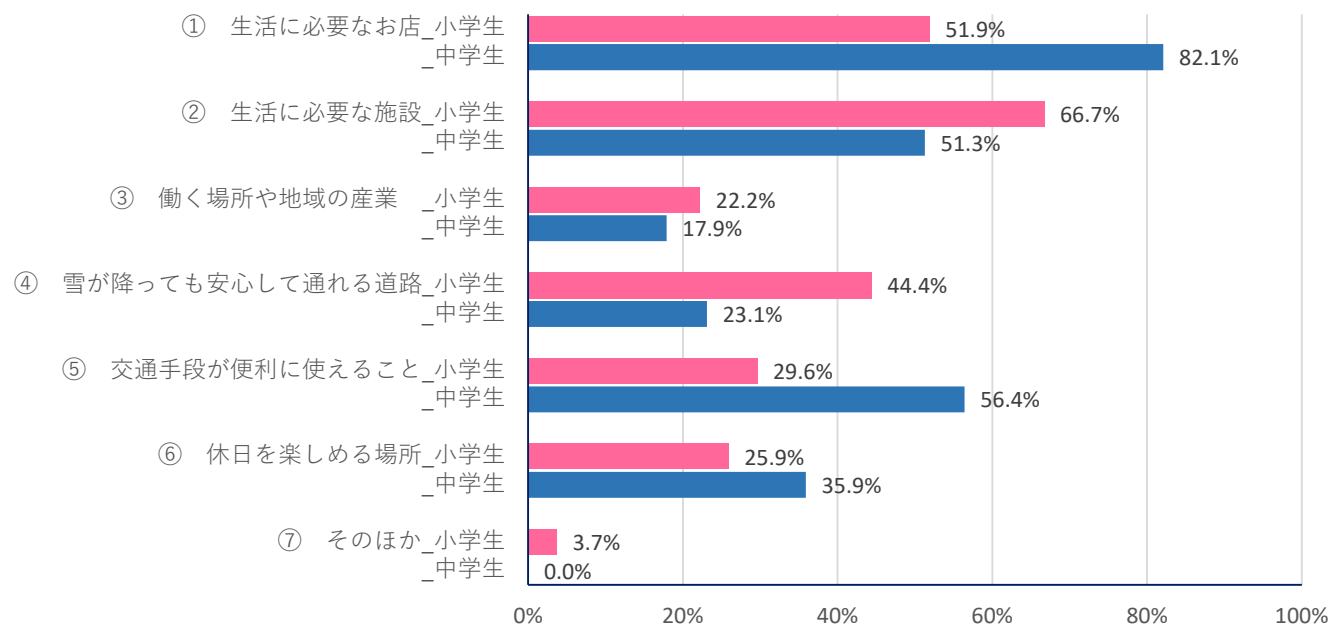


設問4 子どもからお年寄りまで、みんなが暮らしやすい地域には何が必要だと思いますか？

(○は3つまで)

小学生、中学生共に、「①生活に必要なお店（商店、コンビニ、スーパー、銀行、郵便局など）」「②生活に必要な施設（学校、保育園、診療所、デイサービス、役所など）」が上位を占めています。

次いで、小学生では「④雪が降っても安心して通れる道路」、中学生では「⑤交通手段（市民バスやタクシーなど）が便利に使えること」となっており、全体的には生活基盤の整備が必要という意見が多くなっている。



設問5 あなたは、どんな街や地域に住んでみたいですか？その理由も書いてください。

■小学生

▶自然が豊かな所に住みたい。なんかいい感じだから ▶自然の中でくらしたい。理由：気持ちいいから ▶八坂か美麻。自然があって動物がいるから、やさしい人がいるから ▶きれいで明るい地域（安心するから） ▶都会（にぎやかだから） ▶知らない人があまりいない、遊べるところがある。近くに友達の家がある ▶遊ぶ場所がある ▶皆が安心して楽しく住める。大町市 ▶自然がいっぱいであり電気がない所。今、蛸がきれいだし星もみえるから ▶お店がある（コンビニとか）買い物に行くのに20分かかかるから ▶自然が豊か、美麻も豊かだけでもっと違うところにも行ってみたい。▶近くにお店などがあるところにぎやか。楽しくていいと思った ▶大町市 ▶都会 ▶小さい街があり、山も近くにある場所 ▶便利（お店、交通）自然がきれい、あきない、変な人がいない ▶少し南に行ったところ（穂高、池田）歩いて登下校してみたい ▶自然が豊かで遊ぶ場所がある ▶にぎやかで犯罪が少なくて、沢山買い物できて、安心して過ごせる場所 ▶スーパーなどが近くにある ▶糸魚川。海の漁ができて沖釣りができるから、海釣りが沢山味わえるから、遠くないから ▶災害、犯罪がない地域、雪が沢山降る地域 ▶歩いて買い物にいける

■中学生

▶人口の多いところ ▶人が沢山いてにぎやかなところ。目立ちたくないから ▶東京など ▶松本。将来はもし子育てをするなら生活に困らず緑も多い ▶大町。いなかだから ▶空気がきれいな場所。ぜんそくがあるから ▶交通手段が沢山ある。沢山の人がこられる ▶今住んでいる場所にずっとすんでいたい。人数が多すぎず地域の人の顔や名前を覚えられし、みんな優しいから。自然豊かだから ▶にぎやかなところ。みんな元気でいてくれたらそれでいい ▶大町市美麻、空気がきれいだから ▶お店がいっぱいあるところ、買い物便利 ▶きれい、人が多すぎない、お店がある、近くに公園がある。 ▶色々お世話になっている場所だから、美麻。山がある、森もあって気持ちいい ▶分からないので、都会と田舎のはざまみたいなところがいい ▶家の周りにお店があって、でも人は少ない場所 ▶近くに友達の家があるといい、近くにコンビニなどがあるといい ▶大町市常盤、生まれ育った場所だから。14年間育ったところであるから ▶働く場所があり、みんなで集えるスペースがある街 ▶静かでのんびりできる地域 ▶友達がいるところ ▶自然豊かだが、程よく町とつながっている ▶皆仲良し ▶常ににぎやかな街 ▶ド田舎でも大都会でもないちょうどいいところ。人が少ないのも嫌だし、人が多いのも嫌だから ▶生まれ育った場所だから、大阪府藤井寺市 ▶大都会でコンビニの近くに家がある ▶ソコソコの都会 ▶あたたかいところ。すぐ気軽にどこかいける ▶色々な店がある。遊ぶ場所がある ▶美麻がいい ▶協力しあえる ▶観光の人がいっぱいいる、観光スポットがいっぱいある ▶自然が多くて空気がいい場所 ▶スーパーなど色々なお店があるところ ▶色々な人がいて仲良く暮らせる、まちづくりをする地域 ▶周りの人が仲良く、どうゆう人か知っている。家がある。店がある。交通が便利

設問6 あなたの住んでいる地域を良くするために、あなたが協力するとしたら、どんなことをしたいと思いますか。

■小学生

○自然環境への配慮

- ▶草刈り ▶ゴミ拾い×9件、草取り、お年寄りに親切
- ▶バス停掃除 ▶お年寄り、困っている人を助ける。▶草むしり、自然を汚さない ▶町の掃除委員会を作る ▶くさかり、自然を大切にする ▶ゴミなどを増やさない
- ▶あいさつ ▶お花などを沢山うえる ▶行事などに進んで参加する ▶行事の手伝い ▶家を建てすぎないで自然を作りたい

○行事への参加

- ▶自然を大切に、地域の共助をたいせつに

○その他

- ▶協力しないで今のままでいいと思う。▶交通手段について強化したい ▶お祭り ▶仲よくしたい

■中学生

○自然環境への配慮

- ▶ゴミ拾いをする×4件、挨拶をする ▶デイサービスや何かの行事のボランティア ▶木を植える ▶花をうえる ▶木の手入れなど ▶自然の事

○地域の交流促進

- ▶ふれあいをよくする ▶沢山のひとと話をする ▶地域のひととの交流 ▶お年寄りの家へみんなで遊びに行く ▶お年寄りに優しく

○行事への参加

- ▶レジャーなどのガイド ▶もし何かボランティアなどが必要になったときは全力で参加する ▶無くなってしまった地域行事を復活させる
- ▶幸せに暮らす ▶お祭りや行事の手伝い ▶自分のできるアプローチで（折り紙作り）マップみたいなのを作る ▶地域の行事にはできるだけ参加する ▶雪かきの手伝いなどの、お手伝い

○地域のPR

- ▶色々な人にこの地域の良さを伝える ▶美麻の良いところをどんどん言っていく。▶人がもっと住んでいられるように ▶移住をすすめる ▶移住相談

○地域活性化活動

- ▶花豆での地域活性化 ▶花MAME（株）の活用を外にももっと発信
- ▶地域のひとに何がたりないか、必要か聞いて地区に行事を立てる

○その他

- ▶公園づくり ▶いつも明るく ▶交通手段がもう少し整っていたらな～

設問7 大人の人に言いたいことがあったら、なんでも書いてください。

■小学生

▶ゴミをポイ捨てしないでください ▶ポイ捨てするな
▶ゴミのポイ捨てをやめる ▶ゴミをポイ捨てしないで、
自然を汚さないで ▶ポイ捨て禁止（タバコ、空き缶）
虐待などをしない。機械に頼らない ▶タバコを捨てな
いで、ポイ捨てをやめる ▶スクールバスを土日も出し
てください。 ▶土日、楽しく遊べる場所を作ってくだ
さい ▶木や植物を切りすぎないでください ▶もう少
し子供の気持ちを考えて欲しい ▶もっと甘くしてほし
い ▶遊ぶ場所を増やして ▶ない

■中学生

▶なんだかんだ大町が好きです。これからもずっと大町があって欲しい
から無理には言わないが大町が発展してほしい ▶自然を守って思いや
りのある美麻が大好きです。これからもよろしくお願いします ▶これ
からも自然と動植物を守って欲しいです ▶がんばれとにかく ▶頑
張って下さい、協力します ▶子どもの遊ぶところを、あとは田んぼと
森をのこしつつお年寄りを生活しやすく、道路などをつくっていただい
ければ嬉しい ▶美麻には年寄りが多いので、スーパーもないし、大町へ
いける方法があれば人も増えると思う ▶ふれあいバスの土日の運行を
してほしい ▶子どもの楽しめる場所（公園）増やしてほしい ▶学校
に部活を作りたいです ▶もっと遊び場を作ってください（公園とか）
▶皆で遊べる遊び場が欲しい

参考資料

- 美麻地区の人口推計 P 54～56
- 美麻地区の人口動態（平成 2 8 年度～令和元年度） P 57～59
- 美麻地区で自治会が選出を依頼される団体と役員数の状況 P 61

美麻地区の人口推計（１）

１ 人口ビジョンとは

大町市人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び県が策定する人口ビジョンを勘案して策定したもので、当市における人口の現状を分析し、人口に関する課題や認識を市民と共有するとともに、今後、当市が目指すべき将来の方向性や人口の展望を示すものである。

また、大町市人口ビジョンは、大町市総合戦略において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上での重要な基礎とするとともに、今後、策定を進める第５次総合計画においても重要な基礎として位置づける。（平成27年10月策定 人口ビジョンより抜粋）

美麻地区の人口推計（２）

２ 美麻地区の人口推計

大町市人口ビジョンで用いられた「国立社会保障・人口問題研究所」が示す推計方法（以下「大町市人口ビジョンの推計方法」という。）を用いて、美麻地区の人口推計を独自に実施しました。

（１）総人口

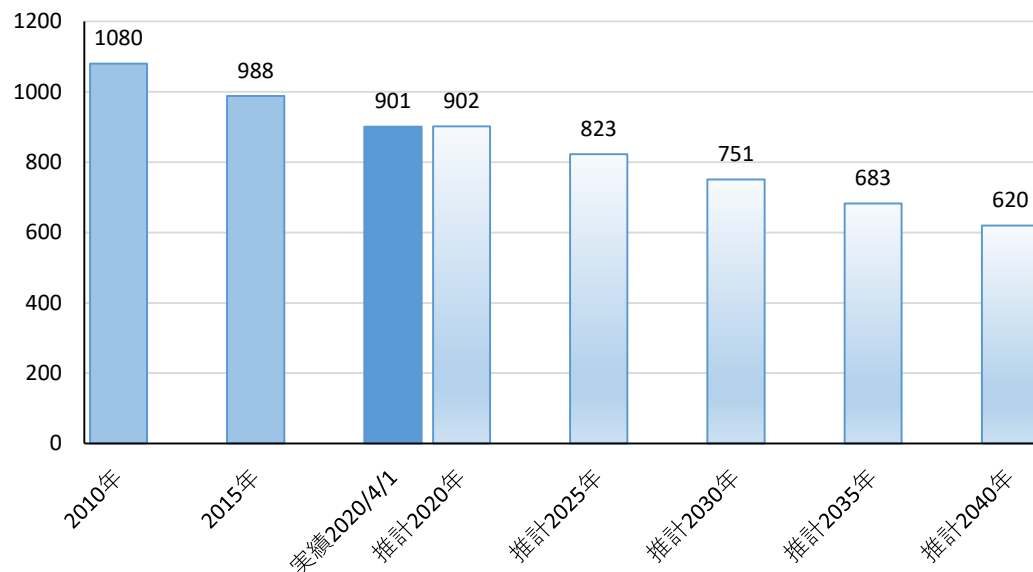
令和2年の推計人口の結果は902名（男性434名、女性468名）でとなり、令和2（2020）年4月1日現在の美麻地区の人口（901人（男性430人、女性471人））ほとんど一致しました。

（２）年齢構成

令和2（2020）年の推計値と実績を比較したところ、
①0～14歳の年少人口は0.6％（6人）増加、
②15～64歳の生産年齢人口は1.5％（15人）減少、
③65歳以上の老年人口は0.9％（7人）増加との結果となりました。

上記結果から大町市人口ビジョンによる推計方法を用いて美麻地区の人口推計を行うことが適当と考えます。

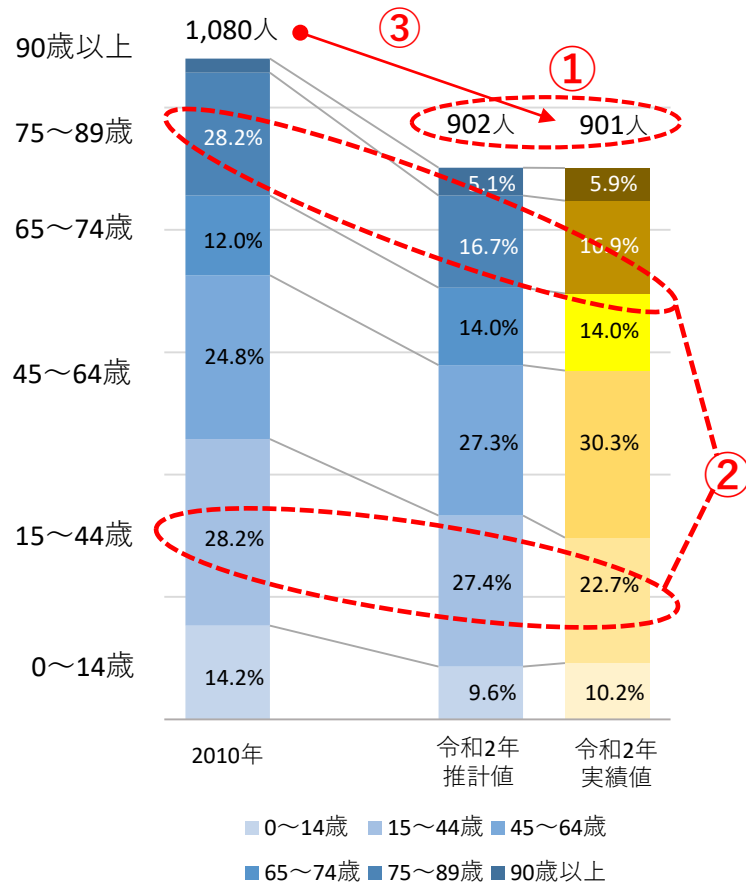
大町市人口ビジョンに推計方法を用いた美麻地区の人口推計



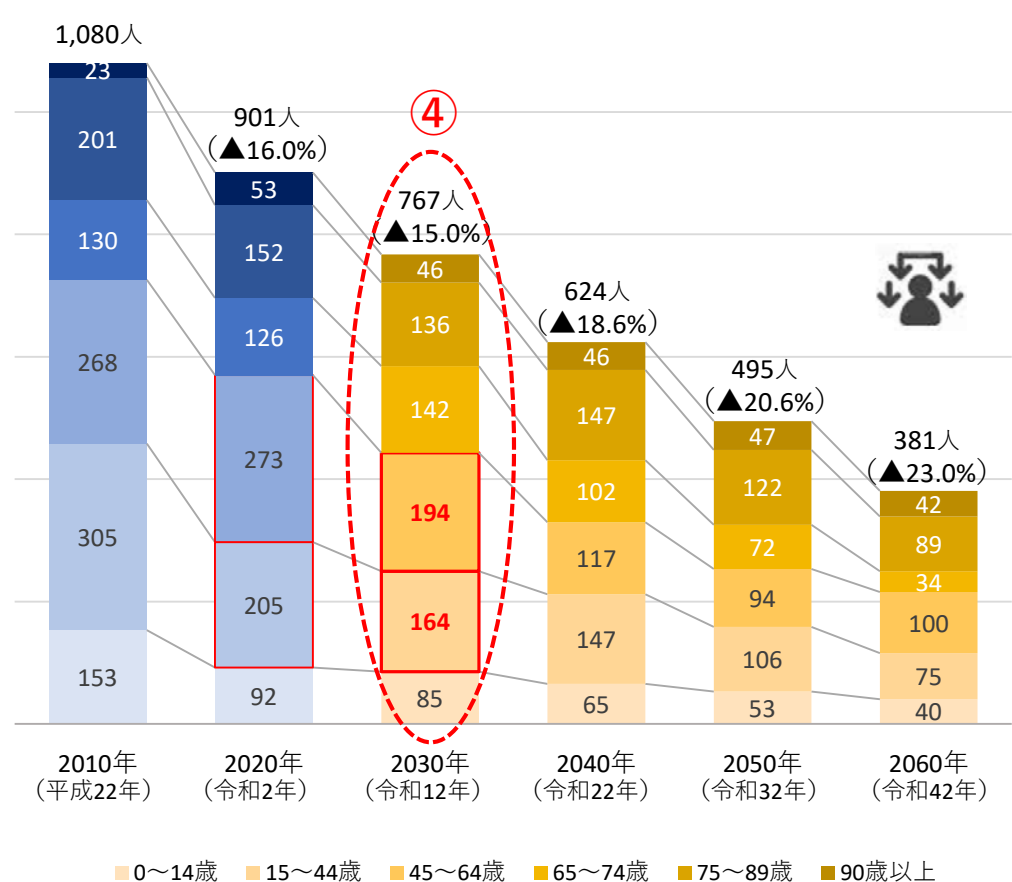
	2010年 (H22年)	2015年 (H27年)	2020年 (R2年) 実績値(A)	2020年 (R2年) 推定値(B)	(B)-(A)
①0～14歳	14.2%	12.0%	10.2%	9.6%	-0.60%
②15～64歳	53.0%	52.7%	53.1%	54.6%	1.50%
③65歳以上	32.8%	35.3%	36.7%	35.8%	-0.90%

美麻地区の人口推計

人口ビジョンに基づく推計値と実績



令和2年の人口を基準とした人口推計結果



- ① 2020年の推計値 (901人) に対して実績は902人でした。
- ② 推計値との比較では、15~44歳と75~89歳の人口が大幅に減少し、90歳以上人口が増加している。
- ③ 地区全体の人口は10年間で16%減少しており、今後も毎年15%以上の減少が見込まれる。
- ④ 令和12 (2030) 年の人口は全体では▲14.8%減少に対して、生産年齢人口は▲25.1%と大きく減少すると予測される。

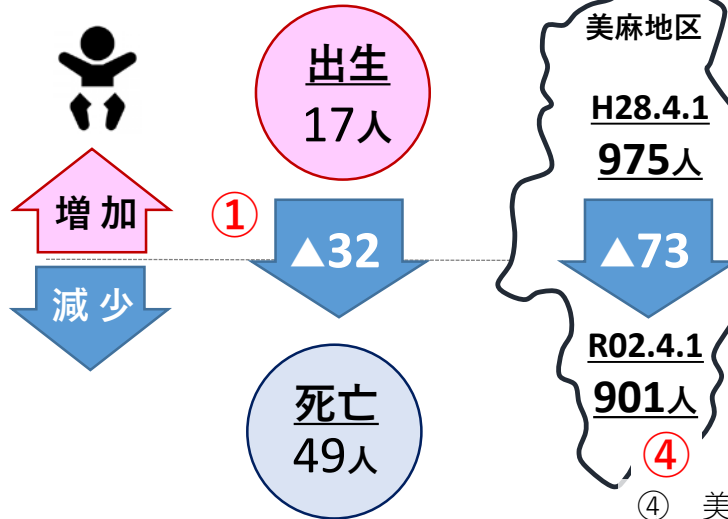
美麻地区の人口動態（平成28年度～令和元年度）

《自然動態》

■ 出生者の状況／地区別

① 自然動態（生まれた人－亡くなった人）は、平均で▲32人（▲8人／年）減少しています。

大塩	二重	新行	青具	千見
4	4	3	5	1



■ 年代別死亡者の状況

60歳未満	60～79歳	80歳代	90歳以上
2 (4.1%)	8 (16.3%)	22 (44.9%)	17 (34.7%)

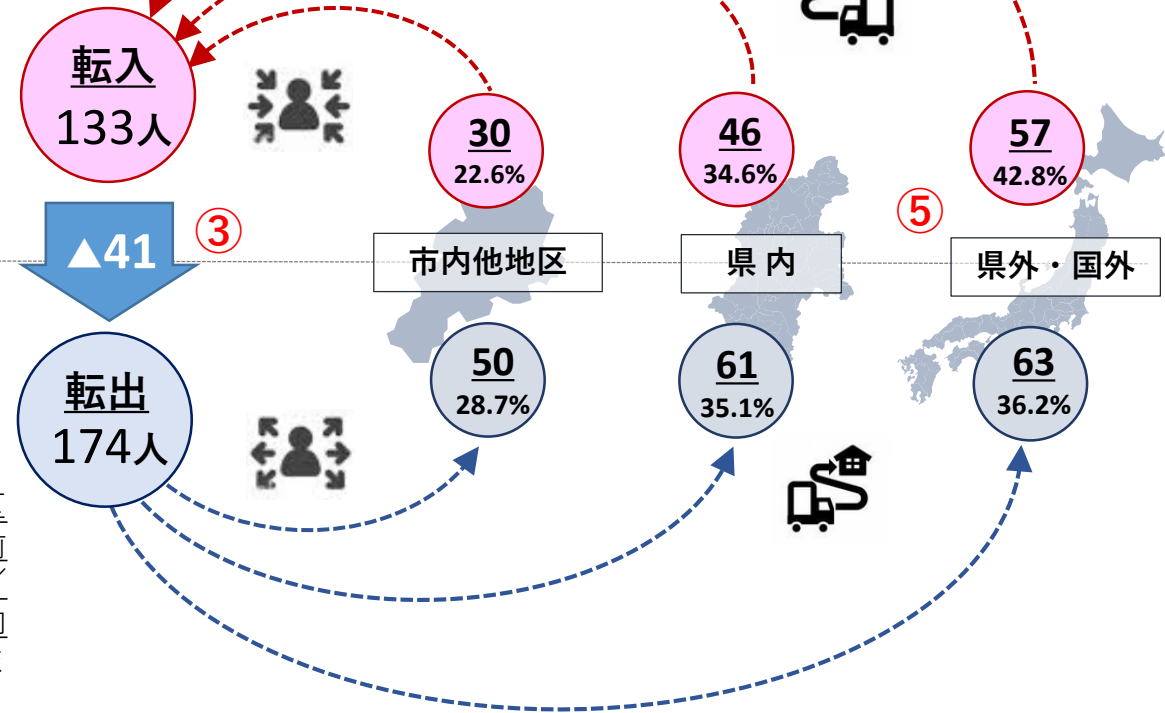
② 亡くなられた方の約8割が80歳以上でした。

④ 美麻地区の人口は、前年比▲2%／年の減少傾向となっています。

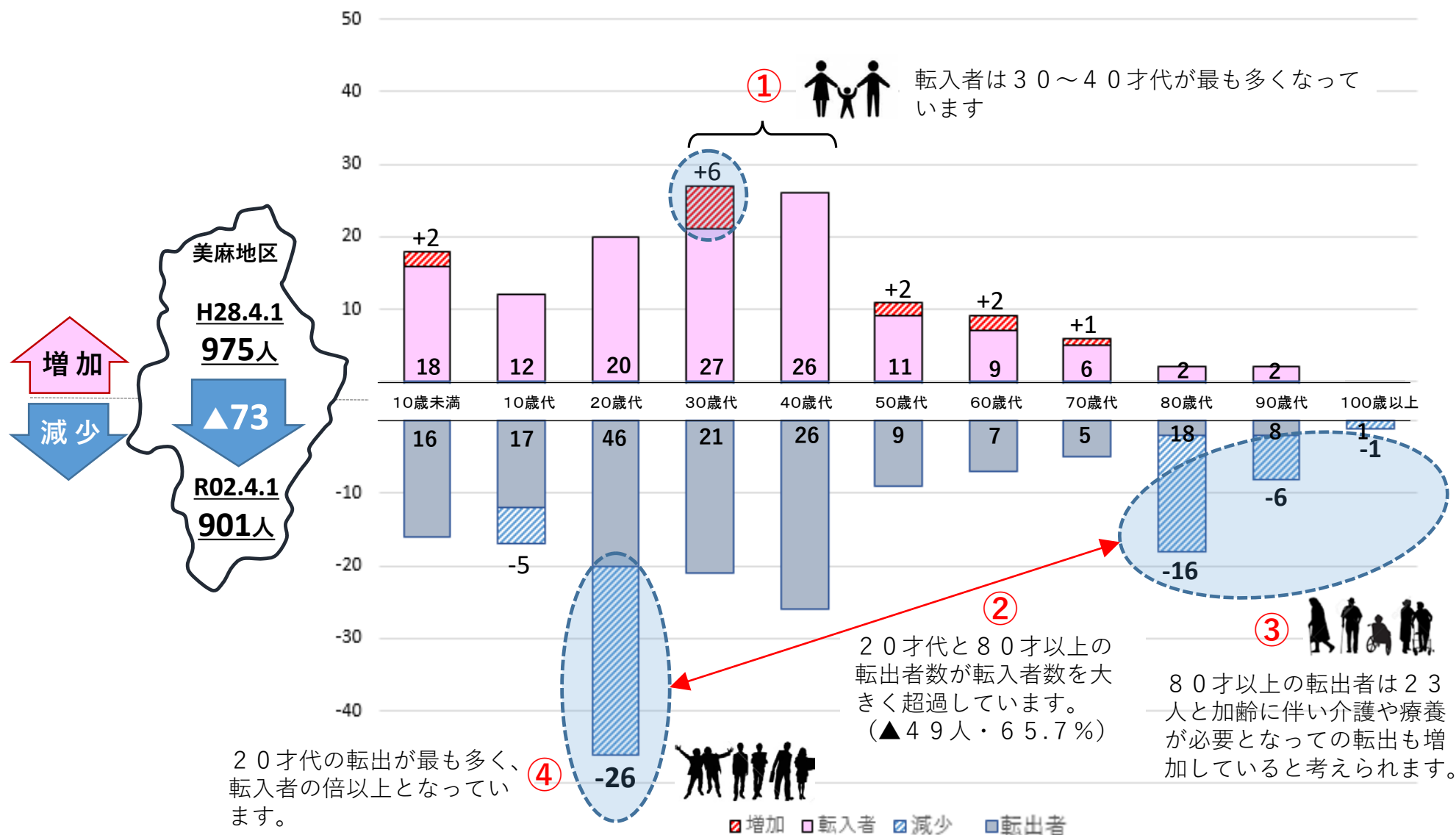
《社会動態》

③ 社会動態（転入者－転出者）は、▲41人（約▲10人／年）減少しています。

⑤ 市外からの転入者は103人（77.4%）転出者は124人（71.3%）となっています。



美麻地区の人口動態／年代別（平成28年度～令和元年度）

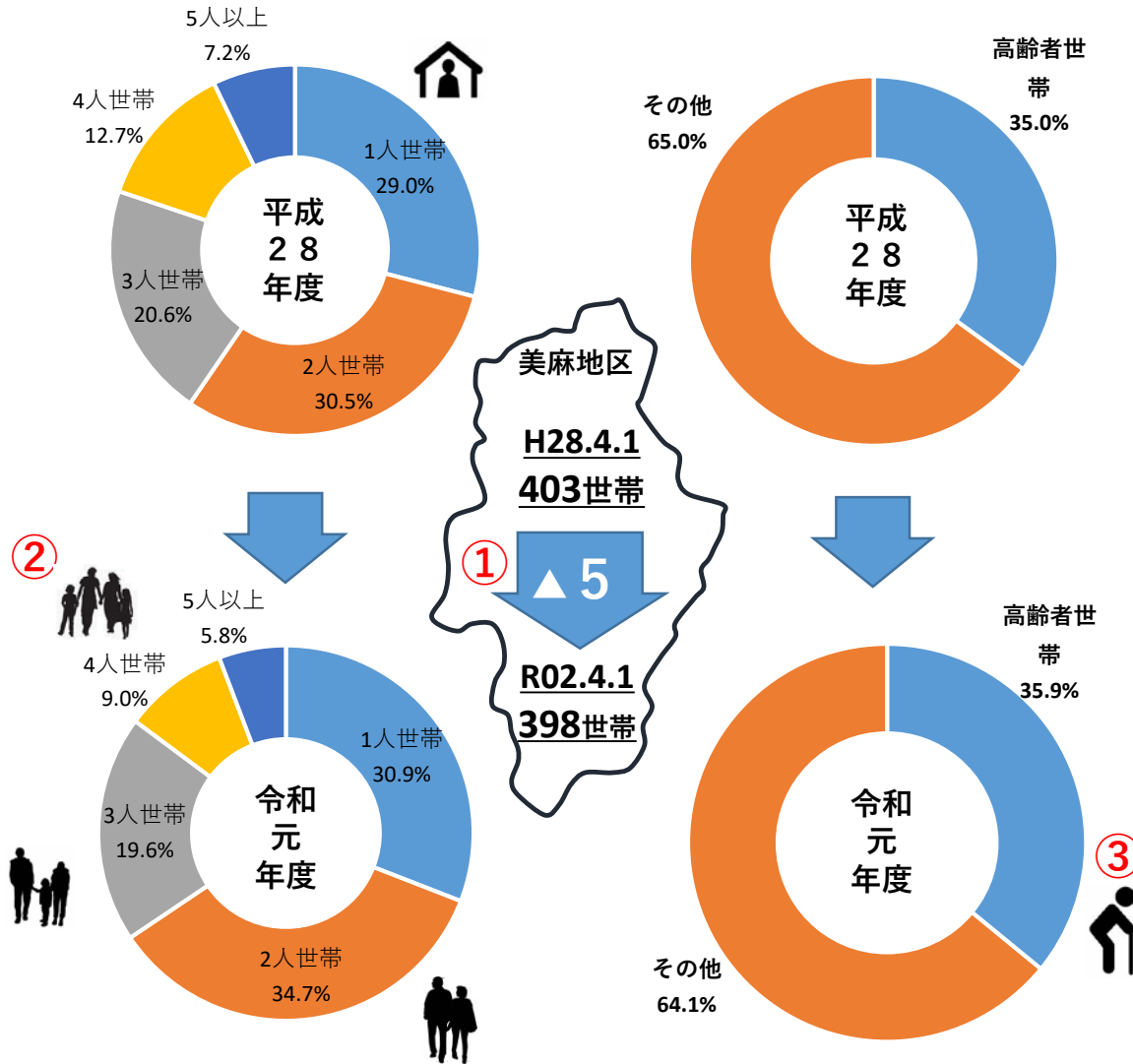


美麻地区の世帯の状況（平成28年度～令和元年度）

世帯の構成／人数別

高齢者世帯の割合

■ 世帯増減の状況／年度別

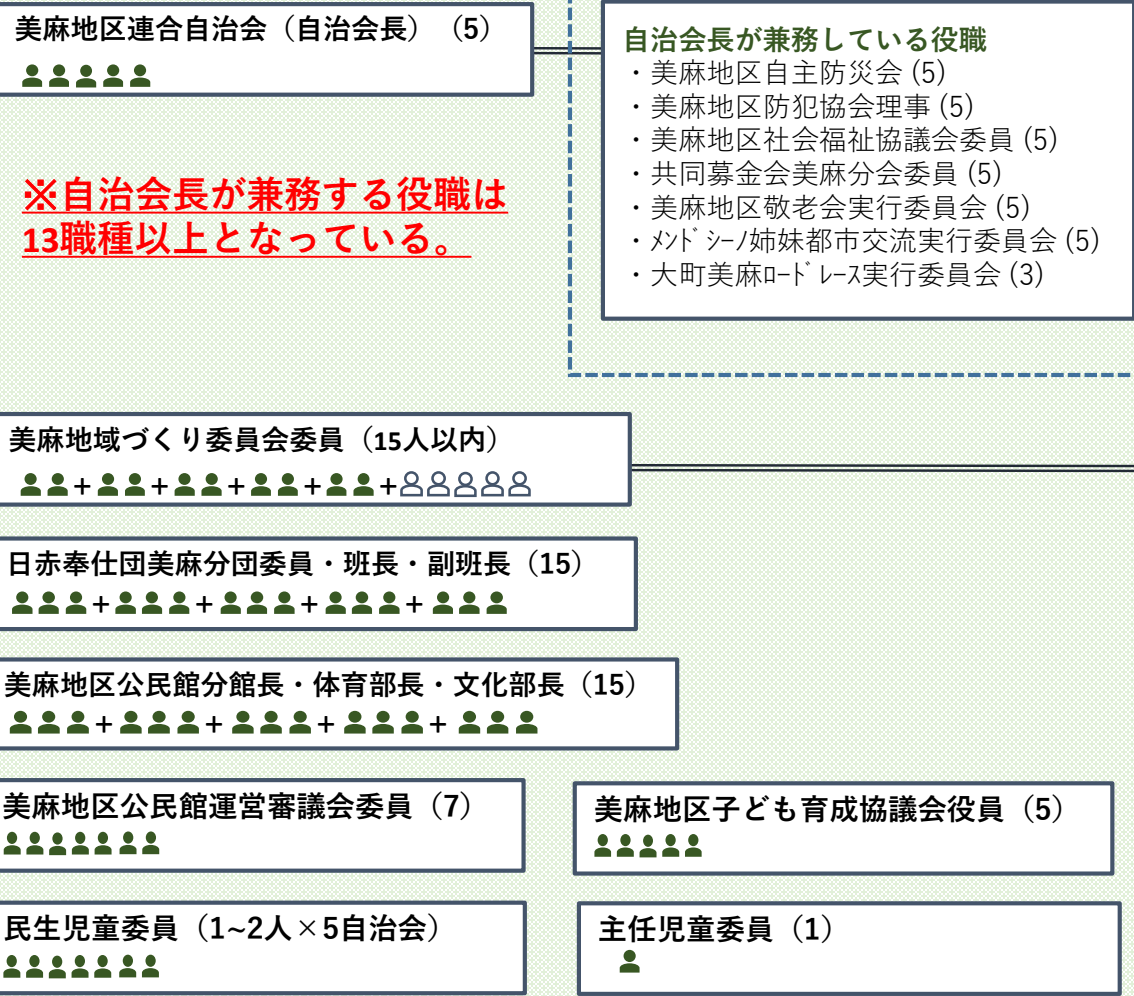


	転入(A)		転出(B)		(A-B)	
	世帯	人数	世帯	人数	世帯数	人数
H28	15	(24)	15	(27)	0	-(3)
H29	12	(25)	15	(28)	-3	-(3)
H30	13	(24)	11	(21)	2	(3)
H31	13	(27)	10	(20)	3	(7)
計	53	(100)	51	(96)	2	(4)

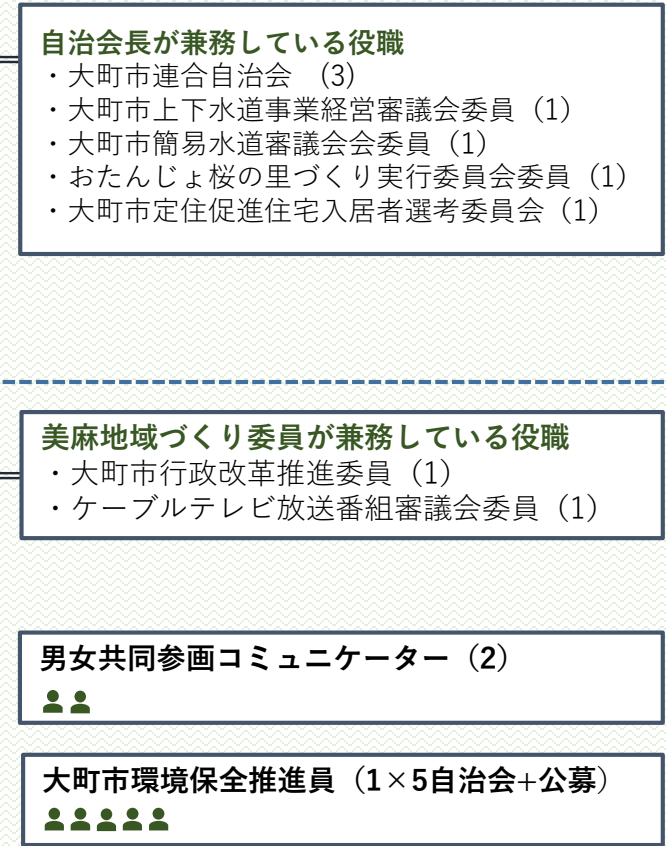
- ④ 転入世帯は12～15世帯、転出世帯は15～10世帯で推移しています。
- ⑤ 平成30年度以降は、転入世帯数が転出世帯数を上回っています。
- ① 世帯数は4年間で5世帯減少しています。
- ② 世帯の構成人数は、4人以上の世帯が減少しています。
- ③ 世帯全員が65歳以上の世帯（高齢者世帯）の割合は35%台で推移しています。

美麻地区で自治会が選出を依頼される団体と役員数の状況

美麻地区を単位に選出される役職 15 職種



大町市全体で選出される役職 9 職種



 自治会選出  その他、公募等 61

令和2年7月時点の調査結果による